



千葉大学医学部同窓会報 第198号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元ろのはな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
ろのはな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
ろのはな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : https://www.inohana.jp/



令和7年度 ろのはな同窓会総会開催



令和7年度ろのはな同窓会総会が令和7年6月14日(土)午後2時半より千葉大学医学部附属病院外来診療棟3階ガートネットホールで、会場とZoom利用によるWebのハイブリッドで開催された。

安西尚彦理事の司会により開会となり、会議に先立ち物故者94名の冥福を祈り黙祷を捧げた。吉原俊雄会長の挨拶の後、各議事が進められ、すべて審議・了承された。(議事要旨は26面に掲載)

総会に引き続き令和7年度ろのはな同窓会賞社会貢献賞、功労賞の表彰式が行われ、特別顧問の三木隆司千葉大学大学院医学研究院長・医学部長、大島精司千葉大学医学部附属病院院長より挨拶があった。続いて吉原会長の司会で、横手幸太郎千葉大学長による「希少難病を追求してヒトの老化に迫る・千葉大学の現況紹介を含めて」の講演会が行われた。(講演内容は3面に掲載)懇親会では和やかな歓談の時を過ごした。

写真右から
前列・白澤浩(昭57)、栗原正利(昭54)、吉原俊雄(昭53)、横手幸太郎(昭63)、中村真人(昭54)、中馬敦(昭62)、植村研一(昭34)、岡本和久(平2)
2列目・野田侑希(医2)、佐藤良祐(医2)、須田光

第30回 (2025年度)
ろのはな同窓会賞
受賞者決定

社会貢献賞

中村 真人

(なかむら 医院院長、昭54年卒)
「千葉市を日本のシアトルに―救命率向上を推進―」

中馬 敦

(独立行政法人地域医療機能推進機構東京東大病院院長、昭62年卒)
「コロナ専門病院設立と一般総合病院への復活に邁進」

功労賞

植村 研一

(浜松医科大学名誉教授、昭34年卒)
「脳神経外科学の功績と医学教育改革・医学英語教育の確立を推進」

石川 広己

(坂巻クリニック・昭55年卒)
「日本医師会活動の実績と千葉県内医師数確保への取り組み」

ろのはな同窓会
への寄附

石川 広己先生(昭55) 十万円

ありがとうございました。

令和7年度総会において選出

名誉会員

上田真喜子 氏(昭50)
中尾 照逸 氏(昭50)
山本 修一 氏(昭58)

紙面紹介

総会開催
役員紹介
総会講演会
ろのはな同窓会賞
長尾精一先生胸像再建
就任挨拶
人事異動
退任挨拶
叙勲感想
受賞の挨拶
各地ろのはな会
日本医師会認定産業医研修会
クラス会
地区ろのはな会報
卒後50周年基金
ホームカミングデー
追悼文
欧州医学史巡り
著書紹介
雑文雑談
会員から
ろのはな同窓会所蔵資料
学内情報
議事要旨
編集後記
26
28 27 25 24 23 22 22 21 20 19 18 17 16 11 12 10 10 9 6 9 5 5 3 2 1

会長再任挨拶

ゐのはな同窓会長

吉原 俊雄 (昭53)



令和7年度総会においてゐのはな同窓会長の再任をいただきました。これまで同窓会員の先生方、同窓会役員の先生、各支部長の先生、そして医学部・病院の現職の先生方に多大なご支援と、様々なアドバイスをいただきましたながら同窓会の活動を行ってることができました。また令和6年は奇しくも千葉大学医学部創立150周年という節目に關われたこと、貴重な経験でした。ホームカミングデー、各支部総会に参加の際は多くの先輩・後輩の先生方とお話する機会を得て、改めて千葉大学医学部の懐の深さや温かみを感じることができました。創立150周年に際して、医学部・病院の先生方と関わりましたこと、故中山学長、現横手幸太郎学長主催の千葉大学校友会では他学部同窓会

に触れたことも貴重な経験でした。メモリアル事業として様々な企画が完遂されましたが、今期以降は新副会長、新役員の先生方の新たなアイデアや行動力の元さらに同窓会組織の発展が臨まれます。同窓会事務局の方々、イベントの際には千葉医学会事務局の方の協力を得て遂行していますが、あらためて感謝申し上げます。さて、今後に向けては多くの方々と意見交換しつつ、派手な案件ではありませんが以下の事項も検討事項として挙げられています。(1)汚れや破損が目立つゐのはな同窓会館の補修、維持管理、(2)全会員の名簿管理ソフトの更新、(3)卒業50周年記念の同窓からの寄付基金の活用と明確化、(4)各地区ゐのはな会支援、支部活動のな

い地域の同窓との交流、(5)現存する学友会報(昭8年、31年冊子の電子化)、(6)千葉大の他学部同窓会訪問や交流など。新たな企画については会員の先生方や役員の先生方のご意見を広くいただき

副会長拝命に際して

黒木 春郎 (昭59)



この度副会長を拝命いたしました黒木春郎と申します。どうぞよろしく願いいたします。私は千葉大学医学部を卒業後、小児科医局に入局し、関連病院・大学教官を経て2005年に千葉県いすみ市に外房こどもクリニックを開いたしました。2008年に医療法人社団嗣業の会理事長となり、2023年4月に東京港区にこどもとおとなのクリニック パウルームを開設しております。

同窓会活動には秋葉哲生先生(あきば 伝統医学クリニック)にお誘いいただき参加し始めました。千葉県ゐのはな会では自分が取り組んでいる地域ブライマリ・ケアの充実をテーマにして企画を行い、様々な情報発信・交換を行うことが出来ました。自著、パウルーム開設のことなども同窓会誌

場を有益な情報交換の場と出来るよう、微力を尽くす所存です。

ゐのはな同窓会副会長 挨拶

安西 尚彦 (平2)



この度副会長を拝命しました千葉大学大学院医学研究院薬理学 教授の安西尚彦です。吉原会長のこれまでの4年間、総務担当理事を拝命していましたが、今回の3期目におきましても全力で運営をサポートさせて頂きたいと思っています。

歴史と伝統あるゐのはな同窓会を未来に向けて継続的に発展させるために必要なのは、やはり次世代の担い手を増やして行くことに尽きるかと考えております。その基源となるのはやはり千葉大学医学部であり、幸いなことに毎年約120名の卒業生がおりますが、残念なことには若い世代であればあるほど、会費の納入率が低く、また同窓会合への参加率は低い現状がございます。

皆様からのご指導をよろしくお願い申し上げます。

卒業生が同窓会を身近な存在と感じて頂くために、白澤副会長が大学支部として四金会の復活を提案され、COVID-19パンデミックの影響での中断を経て、2023年から「シン・四金会」として再開致しました。再開に当たりこれまで同窓会と縁が無かった方々を中心に平成11年卒から平成20年卒の医学部及び附属病院在籍者の皆さんに「幹事」にご就任頂き、年4回の会合を第4金曜日のお昼に実施しております。現在平成11年から平成20年卒の方々の横の繋がりを広げており、今後はその世代の先生方が中心となり、さらにその下の平成21年卒から平成30年卒までの卒業生に声かけをして頂いて、持続性のある大学支部としての運営が可能な体制作りを目指したいと思っております。

ホームカミングデー企画が数年前からリニューアルされ卒業50年と卒業25年の先生方にお集まり頂いてお

りますが、今年度より新たに卒業15年の先生方にもホームカミングデーにお招きすることになりました。これは「シン・四金会」の会合の中で、初期及び後期研修を終えて大学院に入ることで千葉大学に戻るのをきっかけに同窓会の存在を知ってもらうのが重要ではないかという声を反映したものです。大学院卒業とともに千葉・東京をはじめ全国各地に旅立つ皆さんが行った先での同窓会に参加する際に、大学在籍時に同窓会に関わっていた経験が生きていないかと考えるからであります。

大学支部と東京ゐのはな会の両者に所属する立場を活かして、大学と各支部との連携強化の一助となることとができればと考えております。

今後ともどうぞよろしくご指導のほど、お願い申し上げます。



ゐのはな同窓会総会

講演

希少難病を追求して

ヒトの老化に迫る

千葉大学長 横手 幸太郎 (昭63)



人が誰でも経験する「生理的な老化」に比べ、その変化が早く現れたり著しい場合を「病的老化」と呼ぶことがある。骨粗鬆症は骨の、アルツハイマー病は脳の、そして動脈硬化症は血管の病的老化と捉えることもできる。一方、全身の複数の臓器にわたり病的老化が観察される疾病群が早老症（早期老化症）である。代表的な遺伝的早老症としては、幼少時に発症する Hutchinson-Gilford 症候群（以下、HGPS）と思春期以降に症状が顕在化する Werner 症候群（WS）が知られている。Lamin A/C の遺伝子変異を原因とする HGPS は極めて稀だが、RecQ 型 DNA ヘリケース WRN の変異により生じる WS は海外に比し日本人の

構築を通じ、自然歴の検討や臨床研究を実施している。近年の科学技術の進歩は、WS の病態解明にも新たな手がかりを与えることが期待される。患者検体を用いたマルチオミクス解析や、患者由来の iPS 細胞を用いた分子病態の検討、WRN ノックアウトマウスマネジメントモデルの作製、さらには、遺伝子修復技術を応用した新規治

療法の開発などが進行中であり、難病の克服にとどまらず、ヒトの老化機序の解明と健康寿命の延伸に貢献することを目指している。本講演では、千葉大学が世界をリードする早老症研究の最先端をご紹介しますとともに、先を見通しがたい昨今の社会変化の中で日本の医学研究を守る取り組みについて考えたい。

ゐのはな同窓会賞

社会貢献賞

ゐのはな同窓会社会貢献賞を受賞して

中村 眞 人 (昭54)



このたびは、「千葉市を日本のシアトルに」活動に対して、ゐのはな社会貢献賞を頂きありがとうございます。いっかひの巷のかかりつけ医である私が、このような伝統ある栄誉ある賞を頂けることは身に余る光栄です。また、これまでこの活動に対して、ご指導・ご支

援頂いた皆様に心から感謝いたします。今回の私の受賞は、2010 年から始めた千葉市における救急蘇生を広げる活動が評価されたことです。なぜこの活動を始めたのか。それは、2010 年11月29日、千葉大学医学部救急科織田教授の講演に廻りました。織田名誉教授の講演に廻れば、日米の心臓マヒへの対応が全く異なります。例えば、アメリカのシアトルでは救命率45%に対して、日本では5%以下という話に驚きました。私は医師

として、目の前の方が突然死で亡くなることは絶対に信じられないし、許せないと思っています。また、突然死を起こす場所、人の生死が決まる良いのだからかと疑問に思います。そこで、救命の連鎖のスタートとなる、バイスタンダー CPR と AED 使用の普及を、医師会活動として千葉市で進めようと思いました。当時、消防局は年に約1万人以上の市民に救急蘇生を指導中でした。しかし、千葉市民は約97万人なので、30%以上の市民が3回実習受けるのに約90年かかります。それでは、間に合わないと思い、シアトルに習って小中学校で救急蘇生授業が出来るように千葉市教育長をお願いしました。その結果、千葉市医師会と千葉市教育委員会は「いのちを守る教育」を、2011年から継続させています。医師会がリトルアンナ入し教育委員会に無償貸し出しすること、千葉市の小中学校で救急蘇生授業が出来るようになった活動です。

また、医師会は、地域のかかりつけ医・学校医・産業医として、日常診療だけでなく、地域の健康増進活動・学校検診・職場健診・救急当番など多くの場面で行政の活動に関わる関係にあります。行政活動に参加することで、行政の部署間の壁を乗り越えることが出来る唯一の組織です。そこで、私は市民の命を守るという点で一致する各組織をまとめるために、CENTEC 委員会 (Chiba Emergency Medical Training and Educational Committee: 千葉市を日本のシアトルに!! という構想「救命率の高いシアトルを目標にする」) の基に、千葉市における救急蘇生率向上のために活動する千葉市医師会・千葉市・教育委員会・消防局・千葉大学医学部救急科との横断的な連携委員会) を作りしました。この委員会で、市民に対する救急蘇生啓発活動について色々な組織の代表が話し合うことが出来ます。話し合いの結果、医師会会員の救急蘇生スキル向上のために、ICLS 研修サイトを設立し、ICLS・BLS 講習の開催。医師会・歯科医師会・薬剤師会事務職員のための90分救急蘇生コースの開催。各診療科の救急蘇生研修会の開催。医師会認定救急医制度の設立。医師会作成のBLS用DVDの作成と配布などの活動を行いました。

この活動では、四つの勇気を持つことを提唱しています。

- (1) 倒れている人がいたら、声をかける勇気
- (2) その人の意識がなかったら、大きな声で助けを呼ぶ勇気
- (3) 反応がなかったら、心臓マッサージをする勇気
- (4) AED が来たら、自分でショックボタンを押す勇気

この活動は、まだまだこれからです。千葉市・千葉県が世界一の救命都市になり、多くの方が安心して住みたくなる街になることが最終目標です。今後も地道に活動が続けたいと思いますので、さらなる、ご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

バイスタンダー CPR: 現場に居合わせた人が救急蘇生すること
CPR: cardio pulmonary resuscitation: 救急蘇生
AED: Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器
BLS: Basic Life Support: 1次救命処置
ICLS: Immediate Cardiac Life Support: 医療者の1次救命処置

社会貢献賞

るの は な 同窓会社会貢献賞を受賞して

JCHO 東京城東病院 院長

中馬 敦 (昭62)



この度、るの は な 同窓会社会貢献賞を受賞いたしました。

今回の私の受賞は、私が勤務するJCHO 東京城東病院がコロナ専門病院となり、その後一般診療を復活させることに奮闘したことが評価されたことであります。

当院は病床数117床と小規模ではありますが、東京江東区の地域中核病院として医療を提供してきました。

2021年8月の新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第5波デルタ株)に伴い、国(政府官邸)から東京都内のJCHO病院1病院をコロナ専門病院にするよう強い要請が当時コロナ対策分科会会長のJCHO 尾身茂前理事長に対してなされました。JCHO 病院は

1年間一般の入院患者を受け入れられませんでした。

2022年10月からコロナ病床25床を残し一般病床を一病棟で再開、コロナが5類になった2023年5月にはコロナ病床を一部とし、その後一般入院診療を完全再開しました。ただしばらばら医師、看護師が不足しており、また地域住民や近隣のクリニックからも「まだコロナ病院」という意識が残っていて入院患者数の少ない状態が続きました。2024年4月から少しずつ入院患者が増え、2025年初めの病床利用率はコロナ専門病院になる前の8割程度まで戻ってきました。

2021年9月末からコロナ専門病院(50床の受入れ)がスタートし、当初はコロナ患者が急激に減り患者がほとんどいない状態が続きました。第6波オミクロン株が流行してきた2022年2月ごろには45床が埋まりほぼフル稼働が続いたものの、感染がおさまれば再びほとんど入院患者がいなくなる状況でした。

一般入院診療、入院手術も出来ず、この間に医師、看護師の多くが退職しましたが、これについては個々の事情もあり仕方ないと考えました。国が〇〇と言うまでコロナ病院のままであり、2022年9月までの

このような経緯の中で、病院職員が皆一致団結して頑張ってくれ、医師も内科系、外科系関係なくみんな

で乗り切ってきました。そしてJCHO本部及び他の

JCHO 病院の強力なバックアップ、さらに江東区をはじめ地域の行政、近隣の医療機関等の全面的な協力がありました。そのおかげで大過なく病院運営ができたと考えております。

特に当院の千葉大学医学部同窓生の医師、JCHO 現理事長の山本修一先生、さ

功 労 賞

るの は な 同窓会功労賞受賞について

浜松医科大学名誉教授

植村 研一 (昭34)



この度はるの は な 同窓会功労賞を受賞させていただき、心より感謝申し上げます。

米国で脳神経外科専門医になるためにはまず米国の病院でイン턴と一般外科のレジデント教育1年を受ける必要があるために、私は1960年キャンサス市の民間病院にイン턴と一般外科の研修を受けました。

らにJCHO 病院、近隣医療機関の千葉大学医学部同窓生の多くの先生方に大変助けられました。このように同窓生の先生方に支えられたことで今回の受賞に至ったこと、皆様を代表して私が受賞できたことと受け止めております。

改めて、皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

この時に牧野博安先生が1週間前にキャンサス大学で脳神経外科のレジデント教育を終了して千葉大に戻られた事を知り、早速手紙を書いて私も脳神経外科専門医になったら千葉大に戻ることを約束しました。私はNew York州Syracuse市にあるState University of New York Upstate Medical Centerで脳神経外科レジデント教育を受け、Oxford大学とLondon大学で半年間脳神経外科の臨床助手を務めて1968年1月に千葉大に戻りました。佐藤教授から牧野助教を助

も膜下出血の原因とされる脳動脈瘤に対する直達手術の開発も大きかった。

1975年に浜松医大脳神経外科教授候補者に指名された時に吉利和浜松医科大学初代学長から1976年1月から3月までイリノイ大学医学教育研究開発センターに留学し、米国の新しい医学教育を浜松医科大学のみならず医学教育学会を介して全国に普及させるようにしなさいと命じられ、その一環として千葉大学でもワークショップをやらせていただきました。この時、循環器内科学の稲垣教授が大変な協力をしてくださいました。これまでの医学教育が、教師が主体となる講義と見学実習であったものを、学生が主体となるワークショップと学生主体の臨床参加実習への変更である。そのために必要な医師法改正にも参加させられた。

開催予定の行事をお知らせ下さい

学会、研究会、るの は な 会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について、同窓会事務局へお知らせ下さい。本会報に掲載いたします。なお、本会報の発行月は1月、5月、9月です。

功 労 賞

ゐのはな同窓会賞

功労賞受賞の榮譽に浴して

石川 広 己 (昭55)



歴史あるゐのはな同窓会の栄えある賞を私のようなものが頂くことになろうとは夢にも思いませんでした。ひとえに同窓会理事の皆様、吉原会長のお声でこの素晴らしい榮譽に浴することになり、重ねて御礼申し上げます。

私は大学卒業後直ぐに市中病院での初期研修を開始しましたので、大学の医局に籍を置いたことはありません。従いまして多くの先生方のように研究等の業績もないまま第一線の医師としてのみ働き続けております。今回榮譽ある賞をいただいた理由として私の方から想像致しますと、30有余年にわたって連続して地区医師会、千葉県医師会、日本医師会と役員を重ねたことが主なものと考えております。連続して医師会役員

をしておりますと当然の事としてカウンターパートナーは厚生労働省や財務省などの国の役所、また千葉県医療行政などになり、結果として時々の医療政策などに深く関わるような仕事をさせて頂くことになりました。千葉県内の仕事で思い出すのは2009年新型インフルエンザ(3009N1H1pdm)のパンデミックの際に全県の医師会員に毎日早朝最新情報をFAXで通信(FAX代金が高額になって注意された)したこと、千葉県医療整備課や健康政策課と共同で地域医療再生基金に基づく医療政策を協議提案したことなどを思い出します。その中で千葉大学内に当時としては最新機器を導入したシミュレーションセンターを提案したことなどがあります。計画当時は国内で医学教育のシミュレーションセンターとしてはトップの水準でしたが直ぐに琉球大学の医学部に抜かれて残念だったことを思い出します。また2機目のドクターヘリを君津中

央病院に強力に推進したこともありました。日本医師会においては今後皆様に深く関わっていく電子処方箋などの根幹のシステム作りや、マイナンバーカード導入のシステム作り、それに伴う被保険者情報の連携統一等に関わって参りました。また現在でも災害医療で活躍するJMAT(災害医療支援チーム)の仕組みを確立したこと等があります。また、千葉大学病院内に事務所をお借りしております、「千葉医師研修支援ネットワーク(NPO)」を2008年に開設しました。JMATは千葉県と千葉県医師会と千葉大学の3者で協力して設立したものでありますが、設立に際しましては当時の医学教育教授でおられたゐのはな同窓会田邊政裕理事のお力を頂きまして開設しました。その後のこのNPOは医学生とのコネクションを作りながら「良い臨床研修ができる千葉県」という触れ込みで千葉県で研修することを宣伝し、初期研修を開始する研修医数を大幅に増やすことに成功しました。現在は毎年470名前後が全国から集まり千葉県内で初期研修を行っております。こうした事業は全て医師会の役員として関わったもので

すが、大学医局に人脈がない私が医師会で役員を行うきっかけは全てゐのはな同窓会の諸先輩方に因るものであります。最初が第二外科出身の大先輩に地区医師会に誘って頂き、県医師会と日本医師会へは故藤森宗徳(むねのり)千葉県医師会長の強烈な推薦を頂きまして役員に就任することになりました。数々の医師会での出

張や会議の中で各所、各地で活躍されているゐのはな同窓会の先生方から声をかけて頂き、導いて頂いたことを思い出します。医局同門ではありませんが千葉大出身と言うことで後輩として本

員経験者、日本病院会幹部経験者の先生方等にお声がけし「霞ヶ関ゐのはな会」などと銘打って勝手に飲み会を開くことも行っています。これも、ひとえに亥鼻の同窓会の門下として育てて頂いたものと自覚し立場変えて私が後輩を集めて行こうと考え企画しております。

くせないほど恩恵を頂けたと思っております。今後は残された日々をほぼ休みなく続けてきました地域医療を行いながら、地区医師会とNPOの活動に励み、今回のこの榮譽ある賞に恥じないようにしていきたいと思っております。

長尾精一先生胸像復刻

令和6年(2024年)に千葉大学医学部は創立150周年を迎えた。私たちはその長き歳月に様々な忘れ物をしてきた。地震や戦争は多くのものを破壊し失い、そして人々の記憶から遠ざけてしまう。初代校長・長尾精一先生の胸像も明治44年(1911年)5月8日に除幕式が行われたが、昭和18年に金属供出で失われ、その存在自体忘れ去られようとしていた。未来は常に過去から生まれる。

この映像は大切な忘れ物を探し出し、私たちの記憶に留めるための記録です。千葉大学医学部に関する歴史資料としてご覧いただければ幸いです。



就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

疾患生命医学 教授

石黒 啓一郎 (東京大理・平7)



このたび、令和7年7月1日付で千葉大学医学研究院・疾患生命医学およびNIVR動物病態学の教授を拝命いたしました石黒啓一郎です。千葉大学へ赴任する以前は、東京大学理学部生物化学科を1995年に卒業後、同大学大学院理学系研究科に進学し、坂野仁先生のご指導のもと、免疫グロブリン遺伝子再構成に関わる組換え酵素の解析に取り組み、2000年に博士号を取得いたしました。

その後、2000年から2005年にかけて米国Dana-Farber Cancer Instituteに入所ドクトルとして、転写因子E2Fおよびポリコムに関する研究に従事しました。帰国後は、東京大学分子細胞生物学研究所

その仕組みに強い関心を持ち、近年は特に、生殖細胞が体細胞分裂から減数分裂へと切り替わるスイッチの制御機構に注目して研究を進めています。

これまで助教、講師といった任期付き研究職を長く経験してきたこともあり、研究を継続できる「職」を得ることの重みと有り難さを常に実感しております。マックス・ウェーバーの著書『職業としての学問』(岩波文庫)には、次のような一節があります。「学者にとって職業としての学問は、就職および昇進において『僥倖』に支配されている……」。大学制度において、職を得ることは思いもよらぬ偶然に支えられており、他人の昇進や就職を横目に見ながらいかに精神を律し学問に専心できるかが、職業としての学問を成り立たせる資質である――。100年以上前に記されたこの言葉は、これまでの私自身の境遇とも重なり、深く共感するものがあります。そして、今回の医学研究院への着任も、まさに「僥倖」であり、得たい機会をいただいたと感じております。

今後は、教育・研究に真摯に取り組むとともに、動物実験施設の管理にも尽力

千葉大学大学院医学研究院

先端データ医科学 教授

伊藤

薫 (金沢大・平13)



このたび、令和7年4月1日付で千葉大学大学院医学研究院 先端データ医科学 教授を拝命いたしました。これまで多くの方々にご指導とご支援を賜りながら研究を進めてまいりましたが、語りつくせない程の御恩がある千葉大学にて新たな一歩を踏み出せることを、大きな喜びと責任を感じつつ受け止めております。

私は平成13年に金沢大学医学部を卒業し、同年、千葉大学医学部循環器内科に入局しました。関連病院にて臨床研修をしたのち、大学院にて分子生物学的手法による循環器疾患に関する研究を進め2008年に学位を取得いたしました。その後、千葉大学COEプログラム特別研究員を経て、2011年より米国ハーバ

よ、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ド大学医学部およびブロード研究所にてヒトゲノム科学・オミックス解析に関する研究に従事し、医科学分野におけるデータサイエンスの基礎と応用の素地を養いました。2016年からは理化学研究所 生命医科学研究センター 循環器ゲノミクス・インフォマティクス研究チームのチームリーダーとして、主に循環器領域の複雑疾患を対象に集団遺伝学的手法を礎とした、大規模なヒトゲノム・オミックス情報と臨床情報を統合した研究に取り組みまいりました。

現代医療において、ゲノム・トランスクリプトーム・プロテオームなどのオミックス情報、医療ビッグデータ、画像情報、ウェアラブル端末からの生体情報など、多様なデータをいかに統合・活用するかが、個別化医療や予防医学の進展にとって極めて重要な課題となっております。一方、ヒトから得られるデータは非常に複雑であり、基礎・臨床医学に加

人事異動

教授

疾患生命医学

石黒啓一郎 (東京大理・平7)

准教授

内分泌代謝・血液・老年内科学

前澤 善朗 (平10)

同講師より

講師

心臓血管外科学

松浦 馨 (平10)

心臓血管外科助教より

動物病態学

菊池 浩二 (大阪大工・平10)

他大学教授

東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 脳神経病態学分野

三澤 園子 (平11)

学長表彰

令和6年度 医学部受賞者成績優秀賞

成田 涼平 (医6)

学術研究活動賞

大辻 琉加 (医6)

(学年は令和7年3月現在)



千葉大学大学院医学研究院

感染病態学 教授

鈴木 忠 樹 (北海道大・平14)



このたび、令和7年4月1日付で千葉大学大学院医学研究院 感染病態学の教授を拝命いたしました。私は、これまで国立感染症研究所(感染症) 感染病理部において微生物学と病理学の融合領域で感染症研究に携わってまいりましたが、今後は本学における教育・研究にも尽力し、微力ながら学術の発展と社会への貢献に努めてまいる所存です。

私は平成14年に北海道大学医学部を卒業後、同大学分子細胞病理学にて長嶋和郎教授のもとで外科病理学の研鑽を積むとともに神経難病である進行性多巣性白質脳症を引き起こす(CU)ウイルスの分子ウイルス学研究に従事し学位を取得いたしました。その後、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターにて澤洋文教授のもとでポストドクトレーニングを行

い、人獣共通感染症ウイルスに関する基礎研究に取り組みました。平成21年より感染研 感染病理部に赴任し、佐多徹太郎部長、長谷川秀樹部長のもとで新興ダニ媒介性ウイルス性出血熱である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などの新興・再興感染症の病態・病理解明に関する研究や経鼻不活化インフルエンザワクチンなどの新規ワクチン開発研究に携わってきました。平成27年には新興感染症の病理学研究で高名なSheff NAL博士が率いる米国CDC感染症病理部門(Infectious Diseases Pathology Branch)に1年間留学し、感染症の病理学検査やアウトブレイク時の実地対応に従事しました。この留学時、米国CDC内では南米で発生したジカウイルスによる先天性ジカ症候群のアウトブレイク対応が大規模に実施されていました。私も先天性ジカ症候群をレソポンスにおける感染症病理部門での検査業務に従事する機会をいただき、CDC内の複数の専門職が連携してエビ

デンスを迅速に創出し、公衆衛生に還元していく現場に立ち会うことができました。この経験を通じて、感染症対策に必要となる科学者の専門性が極めて多様であることと、感染症対策の実装に、それらの専門家の有機的な連携が重要であることを強く認識しました。さらに、2020年1月に感染研感染病理部長に着任直後に発生したCOVID-19パンデミックでは、感染病理学という学術的な興味に基づいた病態解明研究だけでなく、病原体検査法や抗原検査キットの開発、全国血清疫学調査、FeiCO調査のような公衆衛生対応など多岐にわたる感染症対策に関わり、研究成果を実社会の対策に直結させる経験を積みました。これらの経験を通じて実感したのは、臨床医学、微生物学、疫学、公衆衛生学、情報科学といった専門領域を横断的に結集する「異分野融合型の感染症研究」が、感染症対策に不可欠であるということです。

今後は、感染研での経験と人的・技術的リソースを活かし、千葉大学における教育・研究活動を通じて、実践的な異分野融合型の感染症研究をさらに推進してまいります。また、その研究の場に若手医学者を積極的に巻き込み、次世代の感染症研究と感染症対策を担う人材の育成に注力していきたいと考えています。感染症という人類共通の課題に対して、微生物学・医学

国際医療福祉大学医学部

心臓外科学 教授

石田 敬 一 (平9)



このたび令和7年4月1日付をもちまして、国際医療福祉大学医学部 心臓外科学教授を拝命いたしました。これもひとえに、長年にわたりご指導ご厚情を賜りましたのはな同窓会の諸先生方のおかげと、心より深謝申し上げます。

私は、平成9年に千葉大学医学部を卒業後、中島伸之教授のご高導のもと、第一外科に入局いたしました。入局当時の医局長は、宮崎勝先生(前肝胆膵外科学教授)でいらつしました。その後、関連病院にて外科および心臓血管外科の研修に従事し、宮崎教授のご助

の力で立ち向かう基盤を本学から築き上げられるよう引き続き研鑽を積み重ねてまいります。どうぞ今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

また私は、第一外科における伝統的な取り組みの一つである、慢性血栓性肺高血圧症に対する肺動脈内膜摘除術について、中島教授や増田政久先生(元千葉医療センター院長)のご志を継ぎ、今日に至るまで研鑽を積みまいりました。本術式は極めて高い技術を要するものであり、現在においても国内の限られた施設においてのみ施行されております。幸いにも、中島教授および増田先生のご高配により、米国University of California, San DiegoのJamieson教授らと「ドイン・Kerckhoff KlinikのMayo教授」といった世界的権威の直接のご指導を仰ぐ貴重な機会を賜りました。さらに、肺高血圧症治療の第一人者である田邊信宏先生(千葉県済生会習志野病院副院長、肺高血圧センター長)にも多大なるご教示を賜り、現在の自分を形づくる基礎を築いていただきました。

令和7年4月には、日本循環器学会による「肺塞栓症・肺高血圧症ガイドライン」が改訂され、私も日本胸部外科学会および日本脈管学会のご推薦を賜り、班員の一人として参画する機会を頂戴いたしました。本ガイドラインにおいては、慢性血栓性肺高血圧症に対する肺動脈内膜摘除術が第一選択として位置づけられ、多職種による治療戦略の構築が強く推奨されております。しかしながら、当該手術の実施可能な外科医は依然として少なく、多職種チームを編成しうる施設も限られているのが現状でございます。

国際医療福祉大学成田病院は、開院より5年と新しい病院ではございますが、吉野一郎病院長の卓越したリーダーシップのもと、大学病院としての成熟と次なる展開を目指し歩みを進めております。肺高血圧症治療においては、呼吸器内科・循環器内科・心臓血管外科が連携し、ようやく多職種チームによる包括的な診療体制の構築が実現いたしました。今後は、我が国を代表する臨床・研究拠点の一つとなるべく、全力を尽くしてまいります所存でございます。

末筆ながら、のはな同窓会の諸先生方におかれま

しては、今後とも変わらぬ
ご指導・鞭撻を賜りますよ
う、何卒よろしくお願い申
し上げます。

JCHO 船橋中央病院

院長 郷 地 英 二 (昭61)



令和7年(2025年)
4月1日より山口武人前院
長の後任として独立行政法
人地域医療機能推進機構
(JCHO) 船橋中央病院の
院長を拝命いたしました。
私は昭和61年千葉大学医学
部を卒業し、当時奥井勝二
先生が主宰されていた千葉
大学第一外科(現臓器制御
外科)へ入局、5年間の関
連病院出張の後、宮崎勝先
生の率いる肝胆道グループ
に属し研究を行いました。
その後、宮崎勝先生のご高
配で1995年より3年間
ロサンゼルスに留学させて
いただき、分子生物学的ア
プローチで異種移植の研究
を行いました。ロサンゼル
スでは千葉大の同級生であ
る第2外科の有田誠司先生
にお世話になったほか、多
くの他大学の日本人医師と
も交流し、今でも連絡を取

り合う仲となっております。
帰国後、国立横浜東病院に
勤務し腹腔鏡手術の先駆者
であった故雨宮邦彦先生や
肝胆膵やヘルニアの手術に
長けた十川康弘先生の御指
導の下、臨床の技術を学び
ました。2003年に国立
病院統廃合により聖隷福祉
事業団に移譲された聖隷横
浜病院へ移り、そちらで外
科部長・副院長として勤務
しました。2021年4月
に大塚将之教授のご高配で
JCHO 船橋中央病院に移
りこれまで副院長として安
全管理や病院経営などに携
わってまいりました。20
22年には元千葉大学病院
院長・山本修一先生が始め
られた千葉医経塾の5期生
として井上貴裕先生のもと
医療経済・病院経営につい
て基礎から学び直しました。
全国の病院の6割以上が赤
字経営を続けている今日、
病院長として病院の経営を
維持していくことは決して
たやすいことではないと感
じます。地域医療構想の中、
地域からあつてほしいと望

まれる病院でないと生き残
れないと考えます。船橋市
を含む東葛南部地域は今後
人口は頭打ちとなりますが、
老年人口はここ20・30年は
増加していくとされており
ます。老年の入院受療率は
減りつつあるとはいえ、受
診機会は増加していくと考
えられるので、地域におけ
る自院の役割を認識し、高
齢者救急を担う病院として
地域に貢献していくことが、
少なくとも都会においては
急性期充実体制加算や総
合入院体制加算Iを算定で
きない病院が急性期医療を
行っていく残された道と考
えています。今後日本の病
院状況は大きく変化してい
くと予想されますが、その
変化に順応しつつ、地域の
方々の健康維持を最大目標
としてまいります。あのは
な同窓会の皆様におかれま
しては、引き続きご指導ご
鞭撻のほどよろしくお願い
申し上げます。



上都賀総合病院

病院長 知 久 毅 (平元)



2025年4月1日に上
都賀総合病院の病院長に就
任しました知久毅(ちくつ
よし)と申します。どうぞ
よろしくお願い申し上げま
す。

わたしは、栃木県日光
市に生まれ、昭和58年に千
葉大学医学部に入學しまし
た。大学時代は剣道部で過
ごし、卒業は平成元年とな
ります。卒業後、当時奥井
勝二先生が主宰されていた
第一外科に入局し、出張を
経て、更科廣實先生、斎藤
典夫先生、幸田圭史先生の
ご指導の下、大腸肛門分野
の研究に勤しみました。そ
の後、平成9年に上都賀総
合病院に赴任し、出張時代
も含めると現在まで28年
余、医師人生の三分の二以
上を過ごしてきました。実
は、私が医師を目指すこと
になったきっかけとなった
のが当院であり(その経緯
は長くなるので割愛します

が、感慨深いものがあり
ます。この間、外科診療一
般、特に大腸肛門疾患の診
療に携わってきたほか、災
害拠点病院であることから、
まったく異分野である災害
医療にも関わることになり
ました。平成22年に当院
DNAIを立ち上げ、翌年
の東日本大震災や、平成28
年の熊本地震等にも出動し
ております。

上都賀総合病院は、栃木
県鹿沼市にあり、東には県
都宇都宮、北側には世界遺
産のある日光市が接してい
るという位置関係にありま
す。鹿沼市のご当地グルメ
といえば、イチゴ、にらそ
ばといったところですが、最
近では横浜の某有名店との
関わりから鹿沼シウマイが
売り出し中です。また、園
芸分野で有名な鹿沼土でも
名を馳せています。当院は
栃木県の二次医療圏として
は、県西医療圏に属してお
り、地域の基幹病院の役割
を果たしています。創立は、
昭和10年7月20日で、今年
90周年を迎えました。全国
の厚生連病院の中でも屈指
の歴史を誇ります。当院の

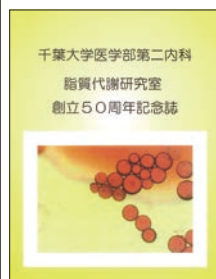
病院として、「保健・医療・
高齢者福祉の事業を通じて
支援を行うことにより、地
域社会の発展に貢献するこ
と」を使命として頑張りたい
と思っています。今後とも
同門の先生方のご指導ご
鞭撻のほどどうぞよろしく
お願い申し上げます。

院長職については、現在ま
での70年余り、千葉大学同
窓の先生が代々務められて
いて、昭和29年5月に渡辺
常美先生(第二内科出身)
が第8代院長に就任された
のが始まりです。渡辺先生
は、宇都宮御出身という縁
もあつたようです。以降、
石塚正二(第一内科)、大井
利夫(整形外科)、田代重彦
(第一外科)、一戸彰(第一内
科)、十川康弘(第一外科)、
安藤克彦(第一外科)の諸
先生方がお務めになってい
て、私で15代目ということ
になります。過去には、千

葉大学から整形外科、眼科、
耳鼻咽喉科、小児科の各科
常勤医の派遣がありました
が、現在では、内科、外科、
泌尿器科、形成外科、放射
線科の各科に千葉大学より
の派遣による常勤医が勤務
している状況です。

ご多分に漏れず、当院の
診療圏でも少子高齢化、人
口減少が進んでおり、お隣
日光市は消滅可能性自治体
として挙げられてしまつて
います。従つて、病院経営
もますます厳しさを増す状
況下であり、加えて医師の
働き方改革や新卒医師の診
療科選択の偏在から、病院
における医師確保等の問題
は山積みですが、栃木県西
部、上都賀地区の公的基幹

千葉大学医学部第二内科
脂質代謝研究室
創立50周年記念誌

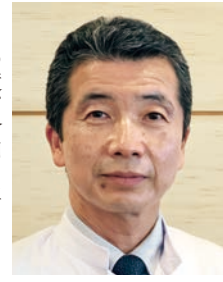


(社) 日本医療福祉建築協会
見学会+研修会
「千葉大学旧病院」



深谷赤十字病院

院長 石川 文彦(平2)



ました。2020年4月には副院長を拝命し、この4月に院長を拝命いたしました。

当院は1950年(昭和25年)開院し、初代院長神山定治先生から数え、八代目の院長となります。埼玉県北部医療圏に属し、深谷市の北部を流れる利根川をはさんで群馬県と接しており、千葉からは離れた土地ですが、昭和45年に就任された第二代高木紹夫院長(昭和23年千葉医科大学卒内科)以降、ゐのはな同窓会の諸先輩方が歴代の院長を務められております。また深谷市は昨年一円円札の顔となった渋沢栄一翁の生誕の地でもあります。

この度、令和7年4月1日付けで深谷赤十字病院院長を拝命いたしました石川文彦と申します。私は平成2年に千葉大学医学部を卒業し、当時奥井勝二教授が主催されておりました第一外科(現臓器制御外科)に入局いたしました。その後深谷赤十字病院、国立療養所下志津病院、千葉県立鶴舞病院(現千葉県循環器病センター)、国立千葉病院、船橋中央病院で研修させていただき、平成7年1月に中島伸之教授が主催されている教室に戻りました。私は更科廣實先生が率いる第一研究室(胃・大腸研究室)にお世話になり、斎藤典男先生や布村正夫先生をはじめとした先輩方に指導をいただき主に胃・大腸疾患の診断と治療の研鑽を積ませていただきました。その後平成11年4月に深谷赤十字病院に赴任させていただきました。

ご支援いただきながら、医局派遣とは関係のない先生方も多く在籍し救急をはじめとして日常診療に奔走しております。そんな中でも、2022年に手術支援ロボット・ダヴィンチが泌尿器科、消化器外科領域疾患で導入され、2024年には最新鋭放射線治療装置の更新整備を行い稼働しております。脳神経外科領域では、カテーテルによる血栓除去治療・血管内手術や外視鏡を用いた精密な脳腫瘍手術も開始されました。循環器科領域では、心臓カテーテル検査・治療に加え、2024年度から不整脈に対するアブレーション治療も本格的に開始するなど、それぞれの科が最新治療を

取り入れて診療しております。またがんのトータルケアを目指し緩和ケア病床20床も有しております。今後はきたる少子高齢化社会に対応しながら、急性期医療とともに地域の医師会の先生方との連携をより強化し、地域一体となった医療を展開していくことが必須であり、地域医療構想に応じた医療を進めていかねばならないと考えております。病院経営の厳しさや議論されている昨今ですが、精一杯努力してまいりたいと考えております。ゐのはな同窓会の諸先輩、皆様方にはこれからもご指導、ご支援の程お願い申し上げます。

会費納入のお願い
口座振替のすすめ

会報と共に会費納入のお願い(払込取扱票)が同封されていた方は、ゐのはな同窓会費(5,000円)の納入をお願い致します。

会費納入には口座振替が便利です。

口座振替申し込み用紙は同窓会事務局までご請求ください。

TEL: 043-202-3750

e-mail: info@inohana.jp

*他金融機関からゆうちょ銀行への振込先
〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)
当座0143947

退任挨拶

充実した41年間

千葉大学大学院医学研究院 泌尿器科学

市川 智彦(昭59)



令和7年3月末日をもって定年退職となりましたので、ご挨拶させていただきます。平成16年4月に泌尿器科学教授に就任して以来、多くの皆様からご支援を頂戴し任期を終えることができました。この場を借りまして、お世話になりました皆様にご心より御礼申し上げます。

診断と治療の手ほどきを受けました。島崎淳教授のご指導により、昭和60年4月に大学院に進学し、科学技術庁放射線医学総合研究所(当時)で染色体を学ぶ機会を得ました。大学院修了後に米国ジョンスホプキンス大学オンコロジセンターに留学しましたが、前立腺癌に対する転移抑制遺伝子の同定を目指す過程で細胞遺伝学に興味を持つようになり、ゲノム医療に携わることにつながりました。

教授に就任した平成16年は、国立大学法人化とともに臨床研修の必修化も開始され、泌尿器科への入局者が2年間全くなくなりました。その影響はしばらく続きましたが、退職前の数年は毎年10名前後が入局するようになり、人を残すという意味では一定の責任を果たすことができたかなと安堵しています。

学外活動の機会にも恵まれ、男性不妊症診療の重要性や生殖医療における泌尿

器科医の役割の向上に務めて来ました。平成30年6月、令和2年6月には一般社団法人日本生殖医学会理事長を拝命し、関連する学術集会も多数主催する機会もいただきました。日本泌尿器科学会や日本生殖医学会において専門医制度に関わる委員会の委員長を務めたこともあり、平成28年から4年間、日本専門医機構の理事を務め、現在に至るまで同機構の活動に従事しています。

令和7年4月から地域医療機能推進機構船橋中央病院に異動し、泌尿器科常勤医師として、男性不妊症診療の継続、臨床遺伝科の開設備など、千葉大学で実践してきた臨床分野を中心に地域医療に従事しています。今ここに至り、「男性不妊症」「ゲノム医療」を一貫して追究できた41年間であつたと実感しています。定年退職後も千葉大学客員教授としてゲノム医療などに関わっておりますが、千葉大学大学院医学研究院、医学部附属病院、そして千葉大学が今後ますます発展していくことを祈念しております。長きにわたり大変お世話になりました。ありがとうございました。

受章の挨拶

瑞宝中綬章

令和七年春の叙勲を拝受して

吉 田 孝 宣 (昭46)



令和7年春の叙勲にて瑞

宝中綬章を拝受いたしましたことをのりはな同窓会の先生方にご報告申し上げます。

私は1971年(昭和46年)本学卒業後旧第一内科に入局し、そのまま出張のかたちで国立習志野病院(現在の済生会習志野病院)に6か月、国保立君津中央病院に2年6か月勤務していましたが、当時の千葉大学第一内科教授奥田邦雄先生と国立がんセンター病院内科岡崎伸生先生(昭和37)のお世話により15年間国立がんセンター病院検査科医員として勤めることになりました。私の課題は肝細胞がんの全身化学療法で、いくつかの原著論文を作成することができましたが、この当時の全身体

学療法の治療成績は惨憺たるもので、岡崎伸生先生をして「例でもよいから肝細胞癌進行例に対する全身化学療法の有効例を経験させてあげたい」といわしめたものでした。

その後私は国立千葉病院(現在の国立病院機構千葉医療センター)へ転勤となり、森博志先生(昭和31)、武者廣隆先生(昭和40)など歴代の院長から地域医療における国立病院医療の意義を、さらに国立病院機構下志津病院へ移ってから西牟田敏之院長(昭和42)の下で副院長、さらに院長を拝命し、国立病院機構が一般医療のほかに筋ジストロフィー、重症心身障害者医療など政策医療としての障害者医療の基幹の一端を担っていることを知りまし

た。そして結局65歳で定年退官を迎えた時には四つの国立病院を約40年かけて経験することになりましたが、この間に特に功績があったわけではなく、それどころ

かその時々で先輩や同僚に助けられて大失敗するところを小さなつまづきで済ませることができたことが何度もありました。にもかかわらずこの度叙勲の栄に浴することになったのは「功績」

によるものであるわけではなく、職場の多くの仲間を守られたおかげで図らずも成し遂げられた「守成」によるものだったのだと思っております。またこの40年間の国立病院での医療活動は一人で自由によつてきた訳ではもちろんなく、施設を移動するときやそれに伴う人員、人数などの調整に当たっては国立病院機構の事務部、看護部はもちろんの事、場合によつてはのりはな同窓会や内科系同門会の御支援ご協力があったからできたに違いないと強く感じております。ここに改めて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



文部科学大臣表彰

科学技術賞受賞のご報告

千葉大学 予防医学センター 特任教授

近 藤 克 則 (昭58)



2025年4月15日に文部科学大臣表彰を受けたのでご報告します。受賞したのは5部門ある科学技術賞のうち「我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った者」に与えられる研究部門です。大学や学会などから推薦された応募240件のうち52件(69名)が受賞しました。過去5年間に千葉大学からの受賞は2件という賞をいただいたことを光栄に思います。ご支援・ご協力いただいた皆様に感謝します。

受賞テーマは「健康格差の縮小に向けた社会疫学研究」です。健康格差の研究「究」です。健康格差の研究を始めた2000年前後の日本には平等幻想が残っており、健康格差の実態は知られておらず、対策が必要という社会的合意もなく政策対応はなされていませんでした。私は14年間の臨床経験で、日本にも健康格差があると直感しました。日本福祉大学に移籍し、1999年度に調べてみると、要介護認定を受ける割合が低所得層で高所得層の約5倍も多いという結果が出て驚きました。後から知ったのですが、ユネスコが「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」(1999)において

科学者が立ち向かうべき課題として健康格差を取り上げていました。その後、20年余の間に延べ200超市町村の高齢者約100万人の大規模多時点縦断データベースを構築し、日本における健康格差の実態や健康の社会的決定要因を介した生メカニズムを多面的に実証してきました。その中には米国National Institute of Health(国立衛生研究所)の助成も受け東日本大震災で被災した宮城県岩沼市の高齢者を11年間追跡した自然実験デザインも活用した長期縦断研究などもあります。

健康格差の存在を実証し、メカニズムを解明し、対策の必要性を訴えるだけでなく、欧米諸国の政策やその評価研究をレビューした政策研究やソーシャル・キャピタルに着目した地域介入研究なども重ねてきました。自治体や国の健康・予防政策の立案や見直しにも関わり、研究成果を紹介し活用していただきました。例えば厚生労働省の「健康日本21」に「健康格差の縮小」や「ソーシャル・キャピタル」「ライフコース」「自然に健康になれる環境づくり」などが加えられ、介護予防政策ではハイリスク戦略からポピュ

レーション戦略への転換に寄与しました。国際的には研究成果を政策や実践に活かす20年にわたるKnowledge translationの取り組みをWHOから2018年に出版した「WHO's Technical Advisory Group for Measurement, Monitoring and Evaluation of the UN Decade of Healthy Ageing(メンバー)として世界一の長寿国日本の経験をフィードバックしています。最近では、産官学共創研究に取り組み、10を超える企業の商品・サービスが、高齢者のQOL向上、地域の活性化、社会保障費用の抑制などの社会的インパクトをもたらしていることを検証しています。4月からは京都大学特任教授も拝命し、Beyond 2050の研究に取り組んでいます。

「長生きできる町」(角川書)「健康格差社会 第2版」(何が心と健康を蝕むのか)(医学書院)などを手に取っていただければ幸いです。

御協力いただいた皆様に深謝します。

各地ののはな会
だより

千葉県のはな会

2025年

総会・講演会 報告

千葉県のはな会 総会・講演会が2025年5月10日(土) 16時半から18時 千葉大学医学部附属病院外来診療棟3階ガーネットホールで旭市長など会員外も含め出席者72名のもと開催しました。

総会において、活動報告、会計報告とともに、本会法人化検討を進めることが承認されました。

総会後に講演会を行いました。第一部では「現在の基礎教育を知る」ことを主旨に、現役学部生の橋本俊亮君(医学部6年)、神津隆之介君(医学部6年)、嶋崎悠斗君(医学部4年)から現在の活動・研究を発表してもらい、学生指導に関与した小野寺淳先生(千葉大学災害治療学研究所)から総括を頂きました。その高度な内容、積極性、またプレゼンテーションのうまさなどは、感嘆するものでした。

第二部では「千葉県の医療を考える」というコンセ

プトのもと、各現場からの情報発信とともに、熊谷俊人千葉県知事にご登壇いただきました。「現場からの情報発信」として、松村洋輔先生(千葉県総合救急災害医療センター 救急診療部長・集中治療科部長)、「保健所から見た地域医療」を竹内公一先生(千葉県保健所/千葉大学医学部附属病院特任准教授)、「厚生労働省へ行ってみたい」下山恭平先生(千葉大学医学部小児科/厚生労働省医系技官)に講演いただき、吉村健佑先生(千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター)から指定発言を頂きました。熊谷知事からは、「千葉県の課題と今後の医療の発展について」として、大局的かつ具体的な構想をお話いただきました。横手幸太郎千葉大学長にもご発言いただき、同窓会ならではの忌憚ない情報交換ができたと思います。懇親会はMOKU-GRI & Laboratoryで行いました。普段直接会う機会のない同窓の懇談の場になったと思います。来年以降も同窓会の特徴を生かし、さらには双方向的な企画を考えていく予定です。

(会長 黒木春郎)

写真右から

一列目：高林克己(昭50)、田邊政裕(昭49)、平澤博之(昭41)、吉原俊雄(昭53)、横手幸太郎(昭63)、加藤友衛(昭38)、黒木春郎(昭59)、小島広成(平3)、高橋宏和(平11)、吉村健佑(平19)

二列目：阿部真一郎(平19)、松村洋輔(平17)、橋本俊亮(医6)、嶋崎悠斗(医4)、神津隆之介(医6)、孫莉玲(平3)、乗貞佑(医3)、佐藤良祐(医2)、須田光(医3)、萱原慎太郎(医3)

三列目：下条直樹(昭54)、ピアス洋子(昭57)、中村眞久(平16)

※お願い※

MAMIS(医師会 会員情報システム)のマイページ登録がお済みでない方は下記より登録をお願い致します。

<https://mamis.med.or.jp/register/>



令和7年度 千葉大学医師会主催 日本医師会認定産業医研修会 基礎(実地2単位)又は生涯(実地2単位)開催のご案内

日 時：令和7年11月19日(水) 18時～20時

場 所：千葉大学医学部・医学系総合研究棟3階 第1講義室

定 員：70名 ※定員になり次第締め切ります。

受 講 料：千葉大学医師会員 無料
非会員：2,000円(当日、現金のみ)

申込方法：下記URLまたは二次元コードよりお申込みください。

申込URL：<https://forms.gle/SPLmLCZXNWSF1H6fA>

※従来通りメールやfax、お電話でも受付致します。

申込・問合せ：千葉大学医師会 事務局

Tel：043-202-3755 Fax：043-202-3757 e-mail：ishikai@c-med.org



人(昭54)、寺井勝(昭53) 和田佑一(昭58)、中川萌以(平22)、上野真幸(医3)、三澤園子(平11)、鈴木秀海(平13)
四列目：松田、竹内、山口和也(平7)、小野寺淳(平18)、下山恭平(平23)、山本、松山、高尾、小笠原定久(平16)
五列目：飯田英和(平21)、鈴鹿竜司(令3)、濱田洋通(平2)、諏訪園靖(平6)、伊藤彰一(平10)、鋪野紀好(平20)、織田成人(昭53)、清水栄司(平2)、櫻井健一(平4)
六列目：阿部幸喜(平9)、志賀隆(平13)、出浦、鈴木、鷺見、鍋谷圭宏(昭60) 七列目：井上、寺嶋、米本、郷地英二(昭61)、依田 ※同窓でない方は姓のみ記載。
(敬称略)

近畿るの は な 会

令和7年

近畿るの は な 会開催報告

令和7年近畿るの は な 会は、5月18日(日) 13時から「JR大阪駅近くのヒルトンプラザウエスト内のイルピノ」梅田で開催され、近畿地方在住の会員18名が出席されました。

伊豆敦子幹事(昭59)の司会のもと、本年より会長を務めることとなった島正之(昭59)が開会の挨拶を述べました。次いでこの一年間に亡くなられた清島啓治郎先生(昭35)と那須武先生(昭41)のご冥福をお祈りして黙祷を捧げた後、昨年まで長年幹事を務めてくださった中尾照逸先生(昭50)よりご逝去されたお二人の先生を偲んで思い出をお話いただき、献杯を捧げました。

その後、しばらく食事と歓談に花を咲かせた後、参加者による近況報告に移りました。長年近畿地方でご活躍されてこられた先生のほか、今年になって近畿地方に赴任されたばかりという先生もいらっしゃいましたが、それぞれの先生が千葉大学出身者の少ない近畿地方の大学や医療機関でさ

まざまな苦勞をしながらも、精力的に診療や研究に励んでおられることを熱く語ってくださいました。

今年初めてイタリア料理店での開催でしたが、ガラス張りの明るい雰囲気の中で催すことができました。また今年から幹事を担当していただいて朝長毅先生(昭59)と伊豆敦子先生

最後に出席者全員で写真撮影を行い、増村道雄先生(昭50)に閉会のご挨拶をいただいた後に散会となりました。



ました。

来年以降も同じ時期に開催する予定です。多くの方に参加いただき、会員同士の交流を図っていきなさいと思います。

(文責：島正之)

写真右から

前列：石井秀始(昭63)、伊豆敦子(昭59)、福井博行(昭56)、中尾照逸(昭50)、島正之(昭59)、増村道雄(昭50)、朝長毅(昭59)、西川和宏(平5)
後列：中川誠太郎(平21)、岡田厚(平21)、桂敏明(平5)、小永井奈緒(平23)、金丸ゆり(平30)、野口貴志(平16)、高田真理子(平13)、大島拓(平13)、山村智彦(平21)、猪野木雄太(平27)

(敬称略)

るの は な 一 杯 会

るの は な 一 杯 会 総 会

2025年6月21日(土)、京成ホテルミラマレにて総会が開かれました。るの は な 一 杯 会 は 県 立 千 葉 中 ・ 千 葉 一 高 ・ 千 葉 高 を 卒 業 し、るの は な の 地 に 在 籍 し た、あ る い は 在 籍 中 の 医 師 及 び 医 学 生 の 会 で す。今 回 の 出 席 は 20 人 で し た。

時代の話、大学時代から現在、更に将来の話、孫の自慢話まで和気藹々のなか話は盛り上がり楽しい時間を過ごすことができました。最後に、常任幹事の平10年卒 伊藤彰一先生の閉会の挨拶で会は無事お開きとなりました。元気な〇〇は学生を連れ二次会へ繰り出していました。

(文責：水谷正彦)

写真右から

1列目：田邊政裕(昭49)、北原宏(昭43)、水谷正彦



(昭52)、細島美羽(医1)、大川玲子(昭47)、西川哲男(昭47)
2列目：森珠青(医3)、鮎川瑞生(医3)、荳原慎太郎(医3)、稲田晴生(昭52)、杉田克生(昭54)、中野義澄(昭45)、荳輪百寿子(平6)
3列目：小田博之(医3)、富永泰正(医3)、石丸直樹(医5)、小野寺淳(平18)、伊藤彰一(平10)、石渡規生(平17)、古関明彦(昭61)



クラス会

三五会 (昭35)

令和7年の三五会は3月9日12時半より例年同様、東京ステーションホテルアトリウムにて開催された。この一年間の物故者は佐藤甫夫君、山崎英雄君の2名療養中、遠方のため参加できないうちのお便りを頂いた方も多く、出席者は昨年より3名減り10名となったが、皆で久闊を叙し元氣な笑顔



で再会。世話人代表 三橋稔君の力強い御挨拶で会が始められた。大井利夫君の乾杯の御発声の後、ワインと食事を楽しみながらしばし歓談。ついで、順繰りにそれぞれの近況をお話し頂く。栃木から車を運転して駆けつけてくれた永田一郎君は全国の病院から手術の実技指導や講演で忙しく過ぎ、三好ひそかさんは太極拳師範の資格を持ち、同世代の男性たちではとてもできない柔軟かつスピードのある実技を披露頂いた。三橋稔君は三十年前

(増田善昭)

写真右から

前列：海保允、神田敬、三橋稔、成田静子
後列：増田善昭、村田光範、大井利夫、永田一郎、谷嶋つね、三好ひそか



あのはな37クラス会 (昭37)

令和7年の37会は猛暑の中、6月22日(日)に、銀座アスターお茶の水賓館で正午から開催しました。

15名の出席予定でしたが、前日に布施吉弘君が体調を崩して欠席となり14名となりました。

開会前に、昨年のクラス会以降に亡くなられた佐々木守君、油井信春君、穴倉正胤君、砂倉瑞良君、4名の冥福を祈念して黙祷を捧げました。

あのはな37会は卒業時75名だったのが、現在、生存会員27名、物故会員45名、消息不明3名となりました。

小野幸雄君の乾杯の発声で開会しました。食事と少しアルコールが入ったところで、各自のショート・スピーチに移りました。

安達さんは伯野君に教わったスクワットを時に実行して元氣。6名の女医のうち3名が亡くなり淋しい、安達さんは、昨年のエッセイ集「学んで教えて60年」に続き今年も「眼さわりな話」を出版して皆に配布しました。

世界の歴史文化の多岐にわたり、造詣の深さに感心致します。

井坂君は、働いてはたらいて60年、今は視力と脚力の低下で介護1の認定。皆にお世話になったのでお菓子をプレゼントするが、7月にエーゲ海、ギリシャの船旅に行く予定で今度チヨコレートを皆にプレゼントするのでお楽しみに。

石山君は、地元江東区に依頼されて「認知症予防家族会」に週1回位で講演している。ある時転倒して整形外科にかかったらMCI(軽度認知症)と間違われひどい目にあつた。

伊東君は、膝ガンを術後満10年を越えCA19-9 1666、CEA 83以外検査で異常がなく、自覚症状も良好でビール、酒等飲んでいて、大腿骨頭骨折後リハビリ中、週1回外来に出ている。死につながる要件なく、もう一息生きたらそう。

入枝君は、昔のことばかり思い出す。鹿児島に疎開して終戦の時、グラマンに襲われ竹藪に逃げ込んだが、友人5人は即死、2人は怪我し自分一人が助かった。父が慶応の文系卒だったので、大学は出たけれど、その時代をみて、医者は食いつぶれがないから医者になれの言葉で兄と同じ千葉大に入学した。兄はインスターの時暴漢に襲われ死亡し

た。人を殺してはいけない。岩倉は相変わらず毎朝のラジオ体操と30分ウォーキングで体調良好。18ホールをカートに乗らずにプレー出来る。時々婦人科の診療を手伝っているが家族に見栄をはるなど叱られている。

大野君は視力は手術により改善し本が読めるようになった。ADLは何とか保たれている。食欲もあり、アルコールを飲み早寝早起きして散歩する。あと4、5年は生きられそう。

小野君は変わりなく開基とゴルフたまに俳句を楽しんでいる。体調管理にストレッチャまがいのことをやっている。マンシヨンの19階に住み、マンシヨン内に囲碁・麻雀・バーもあり、新しい老人の仲間とつき合っている。司馬遼太郎の「翔ぶが如く」読んでいる。安達さんの「眼さわりな話」は話題が多岐にわたりアン・ドレ・ジイドの話が出ていたのでこの際読み返してみたい。

瀬川君は、自分自身が夢の中状態で、何をやっても駄目、何をしゃべったら良いかわからない。皆様に助けて頂いて感謝の気持ちです。石山君にここに連れてきて貰いました。

田島君は週3回程診療し

ている。あとの3日は趣味。クラシックを聴く。レコードが200枚ほど有るが、耳が遠くなり補聴器をつけるがすぐ外れる。最近漢字を間違える。認知症と間違われたことも。

伯野君は近頃新聞の死亡欄を見ると大体自分より若い。今日出席している皆はエリートと思う。基本は元氣なことです。井坂君にスクワットをすすめたが、安達さんはスクワットをして本を書かれたが、これからは元氣で本を書いて下さい。現在一人で開業しているが外科医が減少して住民の希望もあり呆気防止の為やっている。ゴルフも100台である。

山本君は、動作が遅くなった。年齢を感じるがまだ病院の仕事をしている。もう少し仕事を続けたい。山本君はクラスで一番若い87歳です。

吉川君は1年がかりでクリニクを建て替えもう少し外来を手伝う。先日大阪万博へ行って来たが、入場前と後すべて手間がかかり大変だった。先ず入場券の購入スマホで予約するのに万博アプリを入手しなければならぬ。入場券を買ったら時刻を指定パスも予約しなければならぬ。入場

してからもうすぐパビリオンに入れない。全て2時間待ち、アメリカ、イギリス、イタリア等人気パビリオンは行列いっぱい。老人二人でヨチヨチと大変だった。雨天など悪天候の日の方が良いかも。

綿引君は、今回は日曜日開催なので出席した。世界情勢をみると、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナ ガザ・イラ

ンとの抗争。被害は病院や食料補給所まで及んでいる。自分は平井生まれ日立に疎開していた。3月10日の東京大空襲の時、日本の高射砲はロビンに届かなかった。

万博の大変さを聞いたが大学病院も大変だ。駐車場がいっぱい、歩道が無い、診察カードを作るのに順番待ち、採尿、採血も順番待ち、3時間位たつてやっとエスカレーターで3階の診察室へ5分の診察で終る。会計も自動順番待ち。元気で丈夫でなければ大学病院へは行けない。現在週半分は自分で車を運転して生活習慣病対応健診に従事している。

サルコペニアに抗すべくポリファーマシーに小康を保っている。

スピーチが終わったところで集合写真を撮りお開きとなりました。

欠席者の情報をいくつか大原啓介君は、大腿骨頭骨折し老人ホームで週2回リハビリを受け、岩倉、伊東の励ましもあり、歩行器を使って歩ける様になった。

小崎伊佐夫君は井上靖の短い作品や枕草子の現代語訳を読んでいる。

将基面談君は一人住まい週3日デイサービスに通い、3日ヘルパーが来る。土井修君、2月に大腸憩室出血で入院、右膝痛と足親指の巻き爪悪化10kgの体重減少。フレイル状態。福士和夫君は歩行時腰痛く

だけで転倒、家内の介護がなければ出歩けない。

布施吉弘君は欠席の返事を出したが、安達さんに直接本のお礼をしたいから出席する。

油井真知子さんは腰痛が治まらない。

写真右から
前列：小野幸雄、岩倉弘毅、伊東治武、安達恵美子、瀬川襄

後列：伯野中彦、綿引義博、田島誠、大野孝則、井坂誠二、入枝幸三郎、吉川正宏、山本駿一、石山淳一



昭和40年卒クラス会

昭和40卒（1965年卒）

の我々は、クラス会を定期的に開き、「集まれる限り続けよう」と申し合わせ続けて来た。今回は下記の要領で卒後60年の集まりを開催した。

日時：令和7年5月23日

（金）PM12時

場所：ホテルメトロポリタ

ン丸の内

27Fレストラン

「TENGOO（テン

クウ）」

東京駅八重洲北口サ

ピアタワー

幹事は、角田、野口、吉

川の3名が担当、会場の設

定・案内状の作成・発送は

いつものように野口、案内

状の返信受取りは角田、当

日の会の進行は吉川と、そ

れぞれ分担して行った。い

つもの事ながらクラス会実

現のメイン推進力となって

動いてくれる野口兄には感

謝である。

会は、物故者35名への黙

祷で始まり、同窓会の現状、

活動状況などの報告そして

出席者の近況報告という段

取りで進行した。

案内状45通に対する級友

の皆の反応について触れる。

出席するが9名、返信なしが9名、今後案内状不要との回答が8名、そして現在も仕事をしているとの回答が15名（15/45と約30%）、数人の病氣療養中という結果であった。前回のクラス会（2023年5月）の際には13名の出席があったが、会を重ねる度に減少するのは仕方ないことと思うが寂しい。

また、同窓会の活動状況の報告の中で、毎年、銀座の画廊で開催されてきた歴史ある「あのはな美術展」が50回目という今年を最後

にその幕を閉じるとの報告があった。同窓会内での数少ない文化活動に幕が下ろされるということだが、最近の傾向として、絵を描く人が少なくなってきたことと出品する会員も高齢化が進み後継者が出てこないなどが理由として説明された。時代の流れなのかも知れないなどと思われた。

近況報告では、皆が高齢者になったが昔とちつとも変っていないというのが正直な感想だった。世の中の動きに反対の意思表示をするために進んでデモに参加し

ているとか、「自らが最も燃えていたのはいつだったか？」を自らにきびしく問い、同じ問いを私にもきびしく振ってくる友…。一緒に時を過ごしていると瞬時に学生時代に戻ってしまうような、そんな思いを抱かせてくれた嬉しいひと時もあった。そして「来年もまた集まろうね」そんな気持ちにさせてくれたひとときでもあった。

なお、出席する予定9名が8名の出席となったのは、普段からスポーツジムで鍛えている級友が、ジムで転倒し骨折という事故のため急遽欠席となったとのこと…。やっぱり常日頃から、しっかりと気をつけていることではない日常に変わりはなく、改めて気づかせてくれたことだった。

（吉川廣和）

写真右から

前列：野口眞利、吉川廣和、

崎山比早子、妹尾素淵

後列：渡邊功、山浦晶、中

村泰久、角田興一



昭和52年卒同期会「52会」

昭和52年卒同期会「52会」

開催の報告

令和7年4月20日の暖かな日曜日、日比谷「松本楼」において同期会を開催しました。

前回から5年経過していることもあり、46名と多数の参加で大盛況でした。コロナ禍が落ち着いたことも参加者の意欲を高めたのでしよう。

冒頭、乗馬中に急逝された岩田裕子君に皆で深く哀悼の意を込めた黙祷をささげ、会が始まりました。

久しぶりの同期会であり、各自の挨拶にも気持ちが入り、自然と長い話になり時間がかりましたが仕方ないことです。70歳代半ば、話に落着きと老いを感じたのは皆の実感だったとおもいます。

病氣自慢やハゲ自慢、仕事のことなどに笑いを誘う話もあり、和やかで落着きのある会でした。まだまだ地域医療を担う必要のある会員がいる一方で、多くの会員は臨床はほとんどに、寄る年波でしか悠悠自適の生活を送られています。一方で、まだまだ手術、

臨床や研究に意欲的に取り組んでおられる五十嵐辰男

山縣正庸、鈴木孝雄、寺井

勝君など第一線で活躍する

指導医には頭がさがります。

同期で初の叙勲者になつ

た千葉県精神科医療セン

ター1名院長長の平田豊明君

からは「病氣自慢の一方で、

生涯現役の意思表示される

仲間が多くいて励みになる」

とのメールを会の翌日にも

らいました。そのうえで、

医師という職業は引退の時

期を自分で決められる芸術

家、ドイツ語で医師は「Arzt

で、アーティストに似ている

と思うとのことでした。

今回は同期の75%にあたる

多くの方に連絡が取れた

ことにおどろいています。

これはひとえに名簿の管理

がしっかりしていたこと、

日常的に同級生として個々

の連絡を取っていたことによる

成果だと思いました。

同期会継続のためには、

詳細な名簿の訂正、管理が

必要です。転居の際には、

幹事まで連絡することが

大事です。

瞬く間に予定の時間となり、

新潟まで仕事に行く方

つぎの会合に出られる方も

いてあわだしく散会となりました。次回は2年後に、

元気で再会することを祈念して報告します。

写真右から

(古川 齋)

前列：後藤雅博、椎原秀茂、

島上實、奥野妙子、村野早

苗、中村緑、古川 齋、今泉

照恵、香村玲子、尾崎正彦、

笠井みさ子、松前孝幸、平

田 豊明

2列目：石橋勇貴、五十嵐

辰男、小林純、升田吉雄、

川俣泰男、水谷正彦、遠藤

啓二郎

文夫、鈴木孝雄、高橋敏信、

山川久美、岡本和美、今井

克己、岩田次郎

3列目：宮城裕之、寺井勝、

堀部和夫、松本明石、寄藤

和彦、木村正幸、富沢正昭、

稲田晴生、山縣正庸、高田

俊一、山田善重、小林彰

後列：林田和也、四元徹志、

田中幹雄、川田崇雄、磯辺

郷士会 (昭54)

写真右から

一列目：巽浩一郎、岡田修、

高田啓一、高田郁子、角南

祐子、嶋田耿子、宮崎泉

吉田明子、白土英明、栗原

正利、大竹明、中村真人

住田孝之、諸田英夫

二列目：小林進、荻岡博、

齋藤正仁、今井均、鶴田好

孝、杉田克生、高田彰、梶

川工、沼田勉、篠遠仁

三列目：廣島健三、伊澤英

次、掛田充克、嶋田務、今

関文夫、小林繁樹、宮本恒

彦、五十嵐忠彦、古関啓二

郎、田川雅敏、長雄一、下

条直樹、杉浦信之



郷士会会長の白土英明君の開会挨拶で始まり、卒業後亡くなった会員に対し黙とうした。その後参加者中ほぼ年長とおぼしき宮本恒彦君の乾杯で歓談は始まった。しばし語らいあつた後、栗原正利君からは150年記念誌発行も含め、あのはな同窓会の活動状況を報告してもらった。その後、久しぶりに参加あるいは話したような者を厳選し、大竹・住田・伊澤・高田(彰)・長・掛田・吉田(明子)・宮崎・嶋田(耿子)諸氏から近況を報告してもらった。

報告者の卒業後の職歴を聞きながら、各自の経歴を振り返る機会ともなった。80歳まで現役を続けるとする者、新たにクリニックを開設する者、あるいはそろそろ廃業も考え始めたものなど人さまざまであった。参加者全体で見れば、開業

(次面に続く)



(前面の続き)

あるいは常勤勤務医で毎日働く者が多くおり、そのために健康維持に心がけたいものである。

参加者全員の喜びの時間はあつという間に過ぎてしまった。さまざまな料理と飲み放題のお酒、勝手気ままなおしゃべりなど宴たけなわの中で、遠来者の話も聞くことができた。今回も総勢37名同期の桜が土曜曇り空の夕刻に参集できた。誰もが意気軒高で、曇天日ではあつたが気持ちだけでも春満開の雰囲気包まれた。久しぶりに会えた旧友との語り合いのなかで、時間がたつのも忘れる楽しい会であった。

予定時刻が近づいたため、記念写真ととり閉会とした。なお2次会は帝国ホテルのラウンジに移動して、ワインを堪能したとのことである。次回も2年後に開催予定にしており、元気で再会できることを願う。

(文責 杉田克生)

平成3年卒同窓会

(平3)

平成3年卒同窓会は、2025年2月23日(日・祝)12時より京成ホテルミラマール16階にて開催され、総勢60名が集いました。

これまでの小規模な集まりとは異なり、同級生の教授就任のお祝いのため、10年ぶりにホテルの宴会場での開催となりました。遠方からの出席者も多く、再会の喜びが会場を包みました。聖マリアンナ医大消化器内科松本伸行教授が司会を務め、冒頭には小島広成さんが制作した、逝去された同級生の追悼動画が上映されました。その後、吉田武彦さん、土屋正一さん、徐郁修さん、今井直樹さんに向けて黙祷を捧げました。

出席者それぞれが近況報告やスピーチを行い、加藤俊哉・浜松医大臨床教授・浜松医療センター副院長・救命救急センター長、聖マリアンナ医大消化器内科松本伸行教授、帝京大溝口病院外科三浦文彦教授、自治医大消化器内科森本直樹教授、順天堂大乳腺科渡邊純一郎教授に花束が贈呈されました。卒業後34年ぶりの再会となる場面もあり、まるで時が巻き戻ったかのよう

うなあたかなひとときを共有しました。今回は同級生のLINEグループを通じて開催通知を行いました。残念ながら連絡が行き届かなかった方もいらつしました。今回ご連絡が取れなかった同級生については、ぜひLINEを利用されている方から情報

報を共有いただき、次回の再会の輪がさらに広がるようご協力をお願いいたします。

(石塚伸子)

写真右から

1列目：小川和彦、早川(安部)睦、石塚伸子、安藤(松本)道子、加藤俊哉、松本伸行、三浦文彦、森本直



樹、吉田耕、堀江美正、草塩公彦、畠山健次、石原晋、鹿間毅、小島博之、白鳥亨

(米倉) あゆみ

2列目：穴倉(伯野)めぐみ、松野(吉田)典代、田口(幸)智子、土肥美智子、孫莉玲、沖永聡子、関根(大本)由樹、岩沢(浜岡)朋子、阿部(山田)朝美、高瀬美咲、杉岡充爾

3列目：波多野良二、松野公紀、三池聡、二瓶直樹、阿部径和、早野真史、坂下美彦、五十嵐琢司、天野

4列目：田中良明、塚本喜昭、首藤潔彦、佐藤一樹、山口賢一、倉持宏明、関直人、石塚満、森下一、大石嘉則

5列目：青木重陽、中山貴裕、土井茂治、植田育也、諏訪部信一、小林信雄、渡辺基樹、伊藤一茂、大嶋博一、金子健太郎、古谷成慈、渡辺紀彦、長谷川洋早退：渡邊純一郎

令和7年度
献体の集い
無料
要参加登録
と金たても
ご参加いただけます
先着200名様
令和7年11月8日(土)
13:00~15:00(開場12:30)
会場：千葉大学医学部なのはな記念講堂
〒260-8670 千葉市中央区美原1-8-1

令和7年度
献体の集い
無料
要参加登録
と金たても
ご参加いただけます
先着200名様
令和7年11月8日(土)
13:00~15:00(開場12:30)
会場：千葉大学医学部なのはな記念講堂
〒260-8670 千葉市中央区美原1-8-1

特別 千葉大学医学部 脳神経内科学 講師 平野成樹 先生

講演 認知症とは？ 治療の現在地

参加申込み 下記のURL又は二次元コードから事前に参加申込みをお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/19128ZDQdY>

ハガキ、メールでもお申込みできます。お名前、メールアドレス、電話番号、参加人数を明記し、下記問合せ先まで送付してください。

お問合せ 千葉大学医学部 脳神経内科学 講師 平野成樹 先生
〒260-8670 千葉市中央区美原1-8-1
TEL: 043-222-7171(代表) 043-226-2500(ダイヤルイン)
E-mail: inohana-soumu1@chiba-u.jp



千葉大学

主催：千葉大学医学部、千葉白菊会

後援：千葉県、千葉市、なのはな同窓会

千葉白菊会



Q 検索



会場案内図

京千葉駅東口正面7番のバス乗り場から「千葉大学病院」または「南失火」行きバスに乗車「千葉大学看護学部入口」下車

千葉大学医学部なのはな記念講堂

駐車場



千葉県ゐのはな会

令和7年3月 第25号

千葉県ゐのはな会会誌

《特集》千葉県の地域医療を考える



Vol. 25 No. 1 2025年(令和7年)3月号

目次

表紙題字：井出源四郎氏

巻頭言 ————— 黒木 春郎 (S59) ——— 1

Essay

92歳の人生論 ～さて薬を飲むか～ ————— 三枝 一雄 (S32) ——— 2

《特集》千葉県の地域医療を考える

地域医療の調整の方向性 ————— 竹内 公一 (自治医大 H3) ——— 5

千葉県の地域医療を考える－千葉県立病院の救命救急センターとして担う役割
松村 洋輔 (H17) ——— 8

医系技官になって考えたこと ————— 下山 恭平 (H23) ——— 12

救急サークル活動のご報告と学生の研究について ——— 橋本 俊亮 (医学部5年) ——— 15

俳句

雲の峰 ————— 三枝かずを (S32) ——— 18

神奈川県ゐのはな会

令和7年 第35号

ゐのはな・かながわ(令和7年6月30日)

ゐのはな かながわ



神奈川ゐのはな会・千葉大学ゐのはな同窓会神奈川県支部

令和7年 35号

ゐのはな・かながわ 第35号 目次

巻頭言 千葉大学医学部の現況と今後の展望 ————— 三木隆司 ——— 2

退任挨拶 同窓会会長退任のご挨拶と父への追憶 ————— 西川哲男 ——— 4

就任挨拶 神奈川ゐのはな会会長就任にあたって ————— 平澤 晃 ——— 7

総会 令和6年度総会および懇親会報告 ————— ——— 9

令和5年度決算報告・令和6年度予算案 ————— ——— 10

総会写真 ————— ——— 10

医学トピックス 行政医師のお仕事 ————— 岩田真美 ——— 11

病院めぐり 聖隷横浜病院 ————— 大田光俊 ——— 14

身辺雑記 〈役に立たないコーナー〉 ————— 三科孝夫 ——— 15

温泉三昧 ————— 飯沼克博 ——— 18

診療支援室と医師事務作業補助者について ————— 野澤聡志 ——— 21

初めての海外旅行 ～チベット実験旅行1991 ————— 玉置正勝 ——— 23

湘南地区の幹事就任のご挨拶 ————— 浅川雅透 ——— 26

幹事就任のご挨拶 ————— 牧野裕庸 ——— 29

表紙のことは ————— ——— 30

事務局より ————— ——— 30

神奈川ゐのはな会則 ————— ——— 31

編集後記 ————— ——— 32

題字・中村隆次／写真・小柳朝明

卒後50周年記念

ホームカミングデーに招待されて

田邊政裕(昭49)



AAMC (Association of American Medical Colleges) 米国医科大学協会) は米国の医学部、教育病院、学術及び科学団体からなる組織で医学教育全般に関する学術集会を毎年開催しています。15年くらい前になりますが、AAMCに参加した際にあるセッションで「Establishing a Culture of Philanthropy with Students and Young Alumni」のタイトルでコーネル大学(大学)の先生が慈善活動の文化醸成に関する発表をしていました。大学では慈善活動の文化醸成を目標とする教育が行われており、その一環として学生が卒業生に奨学金の助成を電話で依頼する活動が紹介されていました。更に寄付をしてくれた卒業生に対して依頼した学生が直接お礼の電話をすることで学生と卒業生と

の関係性が生まれ、寄付をしてくれた卒業生が学生のロールモデルとなることが慈善活動の文化醸成に役立つとのことでした。大学は寄付を受けるばかりではなく、卒業生の支援にも取り組んでいくことも報告されていました。その取り組みで特に印象に残ったのが「Half-Century Society Events」でした。卒後半世紀を経た卒業生に対して50年の長きにわたる医学・医療への貢献と大学への支援に対する感謝の証として様々な事業が企画されていました。

この取り組みを参考にし、千葉大学あのはな同窓会は2012年(平成24年)から卒後半世紀を経た卒業生を対象に50年間の医学・医療への貢献と大学・同窓会への支援に感謝の意を表すことになりました(あのはな同窓会報第161号)。同年に卒後50年を迎えた昭和37年(1962年)卒の先生方に2012年7月7日に開催されたクラス会において同窓会長名で感謝状と記念のメダルを初めて贈呈させて

いただきました(あのはな同窓会報第161号)。この式典は2022年からは卒後50周年記念ホームカミングデー(HOD)として卒業生が大学に招待されて医学部長、附属病院長からも感謝の祝辞をいただく全学部的な取り組みになりました。そして2024年、昭和49年(1974年)卒の卒業生が卒後50年を迎えました(あのはな同窓会報第196号)。我々の学年は入学当時学園紛争真っただ中で、授業ボイコットや進級・卒業試験を取って受けない学生もあり、多くの留年生が生まれました。そのような状況下でクラスの情報をみんなど共々できるようと、クラス

の中心メンバーがクラス会新聞を立ち上げました。新聞はガリ版用紙に記事を書き込み、謄写版で印刷したものが配布されました。新聞の名称はガリ版用紙に書き込んだ手が親指・人差し指・中指の3本の指で鉄筆を握っていたこと、中心メンバーの故山下道隆君が広島出身だったことから毛利元就の3本の矢に因んで「3本の指」と名付けられました。その後、昭和43年から昭和49年の間にクラス会が発足し、その会の名称が「3本の指の会」と命名されました。

このような事情があつて昨年度のHODでは、厳密には卒後50年ではないクラスメートを含む「3本の指の会」のメンバーが招待されました。私は企画しておきながら招待もされる立場となりましたが、実際その場に臨んである種の感動を覚えました。50年間の専門職としての人生を振り返るの感慨です。山あり谷ありの専門職人生でしたが、その礎を築き、今回の機会を与えてくれた同窓会、医学部、附属病院への感謝の念でもありました。おそろく参加者全員が程度の差はあれ同様の感慨に耽つたのではないかと推察します。

昭和43年(1968年)卒の先生方から同窓会に卒後50周年基金創設の依頼が以下のようにあり、平成29年(2017年)11月16日の理事会で基金の設置が決定されました。昭和43年卒の先生方は「千葉大学医学部卒業50周年基金の創設に向けて」とタイトルされた依頼文で「我々が現在もお、医師としての仕事をもとに、社会活動の継続が出来ることは、医学教育を受けていた母校に対しての感謝の念と誇り」から「後輩、母校

のために」「我々シニアO&Oに寄付を仰ぎ、集まったものを基金として少しでも役に立てるサポートをしたいと考えました。今後50周年を迎える後続学年の方達も同じように意思を継承してくれることを確信して、あのはな同窓会に卒後50周年基金創設をお願い致します。」として基金の創設を提案されました(あのはな同窓会報第179号)。

我々が感じた感慨は昭和43年卒の先生方から提案された基金創設の趣旨と共通であったことから、式後のクラス会において「三本の指の会」として基金に寄付をすることが提案され、了承されました。同窓会と共に千葉大学みらい医療基金へも寄付をさせていただきました(写真。昭和43年卒の先生方が我々のロールモデルとなったことになり、私は慈善活動について学生時代に教育をされたり、教育をした記憶はありませんが、卒後50年を経て人生を振り返る時「後輩、母校のために」何かをしたいと自然に感じました。それが卒後50周年基金への「三本の指の会」の寄付に結実しました。



写真 医学部棟(治療学研究棟)
4Fラウンジに設置した寄付者顕彰銘板

三本の指の会

昭和43~49年 在学生

四半世紀・半世紀 卒業生の集い

千葉大学医学部ホームカミングデー

共催

千葉大学医学部
千葉大学医学部附属病院

開催日

令和7年11月2日(日)
14:00~

場所

千葉大学医学系総合研究棟3階第1講義室

ご案内学年

昭和50年卒業生 (卒後50年)
平成12年卒業生 (卒後25年)
平成22年卒業生 (卒後15年)

千葉大学医学部
卒後50年卒業生皆様
卒後25年卒業生皆様
卒後15年卒業生皆様



begin.continue

ゐのはな同窓会会長
吉原 俊雄

千葉大学医学部ゐのはな同窓会会員の皆様の日頃の御活躍には、同窓会として心より感謝申し上げます。
つきましては、母校においてホームカミングデーを開催し、卒後50年(昭和50年卒)、卒後25年(平成12年卒)、卒後15年(平成22年卒)の会員皆様の日頃の御活躍への感謝の念をお伝えし、賞状等を贈呈いたしたいと存じます。

万障お繰り合わせのうえ、ご参集頂けましたら幸いです。

追悼

橘 正道先生を偲んで

千葉大学大学院医学研究分子腫瘍学

金田 篤志 (東京大・平6)

本学名誉教授(生化学第二講座)橘正道先生が令和7年4月4日に永眠されました。享年94歳でした。

橘先生は昭和6年1月29日東京都にて出生され、昭和29年3月に東京大学医学部医学科を卒業されました。東京大学医学部附属病院にて実地修練ののち、昭和34年3月に東京大学大学院博士課程を修了、同年4月京都大学化学研究所助手、翌

な人材を世に輩出されました。その篤実な人柄と懇切な指導は、学生や後進に多大な感化を及ぼし、常に情熱をもってご教育にあたられていた橘先生のお姿を懐かしく思い浮かべられる先生方も大勢いらっしゃるものと存じます。

橘先生の研究業績は生化学全般に多数ございますが、中でも国際的に領域をリードした3つの業績を挙げたいと思います。第1に核酸前駆体ピリミジン合成の初段階酵素カルバミルリン酸合成酵素IIを動物組織に見・精製し、その活性調節機構も同定されました。第2に尿素サイクルにおけるアセチルグルタミン酸の調節的役割を発見し、その合成酵素の精製と性質解明を行いました。第3に核酸合成の共通前駆体であるホスホリボシルピロリン酸の合成調節を解明し、核酸合成に関する世界的な基礎的課題に多くの解答を与え、新しい研究領域を拓かれました。



叙勲記念祝賀会にて

学会・社会活動においては、日本生化学会理事、日本癌学会評議員、日本臨床代謝学会評議員、日本プリン・ピリミジン代謝学会幹事および理事、ニューヨーク科学アカデミー会員、な

ど、生化学および関連分野の向上に広く寄与されました。

橘先生はこれら教育・研究における永年のご功績により平成25年11月3日、瑞室中綬章を受章されました。その年に私が第3代教授として着任し、11月に同門会にて就任祝いをしていた際に、橘先生の受章が重なりとても嬉しい会となりました。翌年あらためて受章祝賀会を開催させていただきましたが、皆様橘先生の教育・研究への情熱や実直なお人柄に感謝し、心からお祝いを述べられ、素晴らしい時間を共有させていただきました。私の着任後にも教室へ何度もお声掛けにいらしていただき、元氣なお姿を拝見するのをとても楽しみにしておりましたが、教室に掲げた橘先生のお写真から今もその声が聞こえる気がいたします。数々のご指導を賜り有難うございました、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



欧州医学史巡り

ブルッセル医学博物館
Le Musée de la

Médecine de Bruxelles

杉田 克生 (昭54)

2023年10月20日ブルッセルにある医学博物館を訪問した。私立大学Université Libre de Bruxelles (ULB) エラスムキャンパスにある。このキャンパスには、同大学の医学部やエラスム病院 (Hôpital Erasme-Cliniques universitaires de Bruxelles) Audrium (講堂、図書館などがある。ブルッセル中央駅からは、地下鉄で30分ほどのエラスム駅から歩いてすぐの所にある。広いキャンパス内の案内表示板を参考に館内にたどり着いた。

館内は歴史的に貴重な展示物があつた。地下1階本館3階の建物である。地下1階はエジプト時代の人間のミイラ、sarcophagus、Horus 神像、Ibisなどが展示されている。IbisとはThoth神の体現されたもので、brilliant or gloriousの意とのことである。本館2階には、古代から20世紀までの資料が展示されている。雑記するとアスクレピオス、

ル」と聞こえた。他には、パレの胸像、尿検査用フラスコ、瀉血用ランセット、瀉血孔や血管拡張のための吸引器などである。医師がベッドサイドで診療を開始した18世紀以降でも、医学知見は未開であった。ガルの骨相学モデルやワックスを注入した3次元標本であるオズーの解剖標本などがある。その後のフランス医学に活躍したビシャー、レンネック、ベルナール、パスツールなどの業績が紹介されていた。フランス語圏のためか、フランス医学の紹介が多かった。一方本館と廊下でつながつ



ブルッセル医学博物館

ている別館2階には外科関連標本が展示されていた。古代医療器具、ギリシアローマ時代の医療器具、トレパンや下肢切断用器具、尿路結石破碎器具、眼科、耳鼻科、歯科用医療器具が展示されていた。別館3階は外科医療の展示がされており、四肢外傷、切断手技、奇形や妊娠標本などである。

同窓会員著書の紹介

久保田雅也、杉田克生編集

「小児神経診断エラー学」

診断と治療社 定価 4,950円（税込）
2025年5月30日初版発行



『失敗から学ぶ 小児神経診断エラー学』
○編集
・久保田雅也 先生
（島田療育センター小児科）
・杉田克生 先生
（千葉大学子どものこころの発達教育研究センター）
○体裁：A5判 216頁
○本体価格：4,500円（税込4,950円）
2025年5月発行 （株）診断と治療社刊
日本小児神経学会の書店にて好評発売中！

国内国外を問わず、diagnostic error（診断エラー）と題した書籍が散見されま

印象深かったのは、分婉や帝王切開の実際手技標本モデルであり、胎児を取り出す模様がリアルであった。驚くことにこの医学博物館の案内が病院内に矢印で表示されており、誰もが見学できる。医療機関を訪れる患者ならびに家族が医学・医療を学ぶにも良い施設である。

の専門である小児神経疾患が主になって構成されていますが、脳神経内科、総合診療科、放射線科、精神科に加え弁護士の方にも記載いただきました。本学関係者の多くの先生方（小俣卓塩浜直、清水直樹、藤井克則、福武敏夫、鋪野紀好）にも寄稿いただき、内容ある書籍となりました。

す。それぞれの専門領域が冠されることがあり、本書もその類と思われるかもしれませんが。ただし本書の総論で本学医学部附属病院医療安全管理部相馬孝博教授が述べられているように、「diagnostic error」は「診断関連エラー」と訳すべきで、それを基本にして各執筆者に記述していただいたのが本書の大きな特色です。すなわち、単に医師個人の診断推論の誤りにとどまらず、「社会認知理論」を取り込んだ広範な概念ととらえています。本書は編者

しうる症例も数多く収載してあります。したがって小児神経専門医、小児科医、脳神経内科医、脳神経外科医など小児や神経疾患に携わる医師だけではなく、総合診療にかかわる先生方にもお読みいただき、診断推論能力がさらに高まることを眼目にしました。本書を読み進めていく中で、従

来の知識や経験が整理され構造的に体制化されることを期待します。さらにブライマリーケアに日常従事されている多くの先生方や将来を嘱望される医学生に読まれ、明日への知識となつて活用されるならば、編集した者にとりまして望外の喜びです。

の前に、講談社からすでに3冊のノンフィクションを出していましたが、やはりこの受賞が私にとって大きな転機になりました。単行本が発売されると、Amazonでは早々に売り切れて、「在庫なし」になりました。しかし出版社から「重版にします」という連絡はなかなかありませんでした。

した。本作は、重度の障害を持つて生まれてきた子（13トリソミー）を授かった家族を描いています。障害児を受け入れるというのは、どういうことなのでしょう？ 家族にとつてそれは何を意味するのでしょうか？ その答えを探し続けた作品です。

『運命の子 トリソミー 完全版』

松永正訓（昭62） 著
小学館文庫 定価 737円（税込）



本作は、2013年に出版した『運命の子 トリソミー』短命という定めの子を授かった家族の物語（小学館）の文庫版です。ご記憶の方はほとんどいないと思いますが、本作は2013年に第20回小学館ノンフィクション大賞を受賞しています。その経緯を『千葉医学雑誌』に当時書かせていただきました。日本にはノンフィクションの賞が5つあります。そ

のうちの「開高健ノンフィクション賞」と「小学館ノンフィクション大賞」の2つだけが一般公募の形を取っています。いわば新人の登竜門のような位置付けなのですが、実際にはプロの作家たちが受賞しています。私のようなアマチュアが賞を取ることは、まずありません。ちなみに賞金は500万円でした。

受賞したときの喜びと、東京會館で行われた贈賞式の感激は11年経った今でも忘れることができません。この受賞をきっかけに多くの編集者と知り合いになり、出ず道が開けました。本作

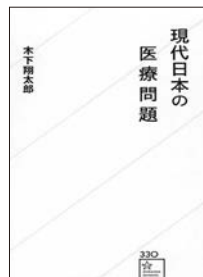
の後に、講談社からすでに3冊のノンフィクションを出していましたが、やはりこの受賞が私にとって大きな転機になりました。単行本が発売されると、Amazonでは早々に売り切れて、「在庫なし」になりました。しかし出版社から「重版にします」という連絡はなかなかありませんでした。結局、本書の売れ行きはベストセラーのような勢いはなかったようです。小学館も初版を売り切れればいいと考えていたのかもしれない。しかし本書はロングセラーになりました。ふつう、本というのは重版になるものは10%くらいで、たいていの作品は3年くらいで初版のまま、絶版↓細断になります。本書はじわじわと読者を獲得し、数年ごとに重版を繰り返しました。大変めずらしいケースだと思えます。発売から10年が経ち、「運命の子」のご家族にもその後の10年が積み重なりました。そこで編集者と相談し、「その後」のことを加筆して、文庫本を作る運びになりました。



木下翔太郎 (平26) 著

「現代日本の医療問題」

星海社 定価 1,500円 (税別)



「日本の医療は世界的に高く評価されている一方、近年ではさまざまな問題を抱えていることも事実です。医師不足、医薬品不足、マイン保険証、医療費増大、美容医療、終末期医療、医学部受験の過熱……こうした医療の諸問題について専門的な言説は数あれど、今後必要とされる医療制度改革に向けて、国民一人一人が日本の医療を考え、議論するための一助として、包括的な見取り図をいま改めて社会に発信する必要があります。そのために、現役医師にして医療研究者である著者が豊富なエビデンスをもとに日本医療の現在地を分析し、将来への提言とともにまとめたのが本書です。(出版社紹介文)」

私は千葉大学医学部を平成26年(2014)年に卒業しましたが、卒業後は内閣府という役所での勤務

慶應大の精神・神経科学教室を経て、現在は、慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座の特任助教として、社会医学・デジタルヘルスの研究に携わっております。昨今、高額療養費制度など、医療をめぐる制度について関心が高まっていると思いますが、本書ではこうした医療費の問題などを含む日本の医療の課題について広く解説しています。大学所属の研究者が発信する内

雑文雑談

蘭学事始

石出猛史 (昭52)

『蘭学事始』(以下『事始』)は、江戸中期の医師で『解体新書』の作製で中心的役割を果たした杉田玄白(二七三三―一八一七)が幕府のオランダ通詞(通訳)によるオランダ語の研究に始まり、オランダ語の書物の翻訳を通じてオランダ科学の研究が隆盛を迎えたことを回想した82歳の著作である。

『事始』のハイライトの一つである小塚原の刑場での腑分に立合った際の記述は、40年近く前の出来事であるのにも拘らず生き生きと描写されており、当時の玄白の熱意と期待感がうかがえる。腑分に関連した記述から、江戸幕府下における腑分の成立過程を推測することができる。猶幕府は

腑分を禁止していたわけではない。腑分も様々し斬りと同様の扱いであったが、様々し斬りの方が優先された。本稿で底本として用いた『事始』は岩波文庫版(緒方富雄校註)である。この版は本文(上・下) 68ページ、校註64ページ、年表10ページ、解説が50ページであり、本文よりも注釈・解説の方が多し。『事始』で玄白は、腑分を「解体」とし、「蘭学」という用語を用いるようになったのは、翻訳作業の課程で、社中の間で自然発生的に生まれ合意するようになったと述べている。

『事始』で玄白は触れていないが、「校註」によると『解体新書』の附図を描いたのは、秋田藩の小田野直武である。角館の出身で、その作品は秋田藩主佐竹曙山・佐竹北家佐竹義躬と共に日本の伝統的表現を十分に生かし、西洋の画法を取り入れ「秋田蘭画」と称された。代表作に「不忍池図」『唐太寺花鳥山水図』があり、いずれも重要文化財に指定されている。直武に西洋画法を指導したのが平賀源内である。蘭学を通じて玄白と源内は親交があったことから直武の起用となった。直武は30歳で急逝した。諸説あるがその死因につい

ては解明されていない。玄白と外科 玄白は晩年の随筆「形影夜話」で、当時江戸で多かった梅毒の治療に力を入れ、玄白の元を多くの患者が訪れたことを記述している。当時蘭学者蘭医として令名が高かった吉雄幸左衛門から昇永水(塩化第二水銀)の処方を知り、治療に用いたが結果は芳しくなかったと述べている。しかし『事始』には梅毒に関する記述はみられない。一方外科に関する記述は多くみられる。

本邦における西洋流の外科の起源から詳しく述べられている。当初は南蛮流(ポルトガル・スペイン)の外科があり、ポルトガル・スペインが日本への渡航を禁止されてからは、オランダとの通商が活発になった。慶安2年(二六四九)オランダの医師カスバル・スハンプルヘルが来日して治療法を伝授した。これをカスバル流と唱えた。更に外科の流派として南蛮流の西流・栗崎流、將軍家の奥医師桂川家、通詞出身の吉雄氏などを列挙している。腑分の見学とオランダの解剖書の翻訳と出版を行い、さらにヘイステルの外科書の翻訳に取り組み、弟子の大槻玄沢の助けを借りて、『瘍医新書』と

お知らせ

るのな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務局にお問い合わせください。

して完成させた。瘍科とは外科である。但し今日の外科とは異り、体腔内の処置は行い得ない。これらの経緯から玄白の外科へのこだわりがうかがえる。

『事始』の「解説」で紹介されている大槻玄沢の著作もこれを裏付けるものと思われる。玄沢は杉田家医家三代(祖父玄白 父甫仙 玄白)の略譜を著して玄白に贈っている。玄白は中国の外科書をもらさず調べたが、何を根拠としたものかが判らない。このことから新たに日本独自の外科学を創建しなくてはならないと考え、中国の書籍にある外科に係る確言・要語を余すことなく逐一撰集すること考えた。これと同じ小浜藩士の青野小左衛門に話し

たところ、最速取りかかるように励まされて、その夜のうちに「瘍科大成」として撰集したと述べている。「年表」によると『瘍科大成』は玄白が27歳の時のもので未完とされている。

さらに玄白は、オランダの解剖書の図を見て中国の書とは異り、実見した腑分の所見と一致することに心服して翻訳に至ったと記している。この経緯をみると、玄白は外科学の確立からオランダの書物の翻訳を通じて蘭学の習得に目標を変えたように思われる。これは賢明な判断であったろう。

玄沢は玄白からこの書の補筆を依頼され、当初「蘭東事始」と名付けたが、後に『蘭学事始』に改めた。

会員から

医学部所有の美術品等

歴史的遺産に関する保管・管理について

医療法人社団普照会 井上記念病院

院長 森 嶋 友 一（昭60）

「千葉医学」6月号に拙

文「画家、猪熊弦一郎と千葉大旧第一外科の交わり」を載せていただいた。その中で、第一外科第2代教授、高橋信美先生の肖像画（写真①）が行方不明であることに触れた。猪熊は肖像画をほとんど描かなかったもので、大変貴重なものだ。

昨年「旧本館」内の備品の整理、搜索に当たっていたら、「千葉市近代史を知る会」の伊藤奈津絵氏によれば、「高橋教授像」は「旧本館」のどこかにまだ埋もれているかもしれないが、破棄された可

能性もあるとのこと。

高橋教授は千葉医科大学第3代学長であるが、法学名誉教授で千葉大学医学部初代医学部長でもあった加賀谷勇之助先生はこう述べている。「元の本館」のどこか（おそらく学長室か会議室）に歴代学長の肖像画が飾られていたが、その中でも高橋教授の肖像画がとりわけ立派であったと。元の本館は「旧本館」より古く、今の看護学部付近に存在した建物と思う。ここに掲げる「高橋教授像」は昭和42年発行の書籍「高橋信美先生」の口絵のカラー



写真①：猪熊弦一郎作「高橋信美像」

写真をコピーしたものである。その時点ではおそらく「旧本館」に存在していたと思われる。千葉医科大学時代のものは西千葉の大学本部では管理されていないことを確認している。

よって、肖像画は亥鼻キャンパスのどこかにあると信じていた。亥鼻図書館には存在しないとの回答は得ている。

同窓会館地下から見つかったものの中から、「三輪徳寛像」の複製写真（写真②）が発見された（伊藤奈津絵氏から提供を受けた）。三輪は言うまでもなく千葉医科大学初代学長（初代外科教授）で、これは猪熊と比べると知名度は落ちるが、洋画家・中沢弘光によるものだ。それを含むパンフレットは三輪の生誕百年を記念して発行されたものだった。しかし、これには三輪が73

記載されており、おそらく亡くなる前年に描かれたと思われる。したがって、「元の本館」に飾られていたかもしれない三輪の肖像画とは違うものだ。



写真②：中沢弘光作「三輪徳寛像」（伊藤奈津絵氏の情報提供による）

さて、今回、「高橋教授像」の行方を追って、様々な部署に問い合わせを電話や書簡で行った。総じて事務方の反応は鈍かった（図書館は直ぐに動いてくれた）。古い話で、台帳でも残っていないければ、対応のしようがないのであろう。もし破棄されているとしたら、医師側にも美術品に対する無関心があり、また本学の歴史に対する愛着も足りないと言えるかもしれない。千葉医科大学の学長は他に第2代が松本高三郎先生（精神科）、第4代が小池敬事先生（解剖学）だが、お二人の肖像画も存在したのではないかと想像するが、当該科で保管されているのだろうか？

貴重な美術品のこれ以上の紛失は大学OBとして、また美術愛好家としてどうしても避けたいという思いから一文を書かせていただいた。千葉医科大学歴代学長の肖像画について、何か情報をお持ちの方は是非ご一報ください。



CHIBA UNIVERSITY

国立大学法人 千葉大学
2025年6月27日 大学からのお知らせ

甲賀かをり教授が内閣府「令和7年度女性のチャレンジ賞」を受賞しました

この賞は、内閣府が、起業やNPO、地域活動などにより様々な分野で活躍している身近な女性のモデルを示すことによって、女性が活躍する機運を高めていくため、平成16（2004）年度から実施しているものです。

甲賀教授は、産婦人科医として従事する傍ら、2012年に日本子宮内膜症啓発会議を設立し、副理事長として一般市民への啓発や政策提言等の活動を展開しました。外科系分野においても、若手医師の育成、新規技術開発に尽力し、女性医師のリーダーとして活躍しています。

千葉大学ウェブサイトより



（左から）後藤理事、横手学長、甲賀教授、正木副学長

ゐのはな同窓会所蔵資料につきまして

ゐのはな同窓会では、ご卒業生やそのご家族から寄贈された資料や大学事務部から同窓会での保存依頼された資料などが写真1のように倉庫内に雑多に保管されておりました。

その資料を伊藤奈津絵様（伊藤博先生・昭56卒ご夫人・千葉市近現代を知る会）のご好意によりまして、写真2のようにきちんと整理し、資料内容も表のように一覧にいただきました。これらの資料は現在、同窓会館1階和室にて保存しております。閲覧ご希望の方は、同窓会事務局までご連絡いただけますようお願いいたします。

また、看護学部棟内の倉庫にも旧医学部本館などの古い図面が多くございますが、こちらは、千葉大学大学院工学研究院 穎原澄子准教授と学生さんが現在、整理してくださっています。

皆様のお力をお借りして大切な資料を適切に保管する事ができまして、心より感謝申し上げます。貴重な資料をご参考にしていただけますと幸いです。



写真1



写真2

解 説

3-4

校歌 楽譜ピース 1915（大正4）年
ピアノ伴奏譜あり
作曲 永井建子 代表曲 雪の進軍
校閲 上田萬年 国語学者 作家円地文子の父
作詞 松原芳樹 大正5年千葉医学専門学校卒
（在学中の作品か？）

4-2（提案）全てスキャン

1894（明治27）年11月 豊田写真館撮影
（豊田尚一写真館）
第一高等学校校医学部 教授 新井春次郎先生送別
集合写真
寄贈品か？
昭和30～40年代に寄贈され裏書の学生名などを医学部
又は同窓会で調査していた形跡あり。
カビ発生 一刻も早くデータ化必要
千葉市郷土博物館、千葉県文書館にも関連資料所蔵あり。
郷土博物館に関しては現状資料未整理。

4-3、4-4

戦中戦後に行われた戦没者慰霊祭の資料
同窓会奉仕部から送られた戦没者家族への香典に対する
礼状、戦没者遺影、戦没者に関する事務書類など

ゐのはな同窓会整理資料リスト（1部）

箱番号	番号	内 容
1	1	1978年 新病院記念品 古川順三作ブロンズ 婦人 額
1	2	1975年 医学部百周年記念品 木造旧本館 1973年解体レリーフ額 2点あり 他1点は1階に展示中
1	3	1975年 松本徽章工業 医学部百周年記念品 ペン皿 箱付き
1	(7-6)	7-6 加賀谷教授旧蔵品の立体物 野球部長 記念盾と野球部贈呈還暦祝盾の2点
2	1	S13卒會澤太冲氏旧蔵品（旧一外科）非常駆 けつけ木製札、写真（医局 高橋信美氏関連） 他 2024、2025年寄贈 / ファイル・木箱
2	2	ゐのはな同窓会報 掲載用写真 ミニアルバ ム
2	3	ゐのはな同窓会報 原稿 大量
2	4	大谷克己教授最終講義原稿コピー
2	5	1970年頃学生運動関連資料
2	6	さつき寮工事関連資料
3	1	長尾精一 土浦清水医院開業祝辞（筒）前身 校卒業 清水精一郎旧蔵 1970年寄贈
3	2	三輪徳寛直筆書状、関川茂尾氏寄贈写真、牧 野氏旧蔵資料、相磯教授旧蔵得業士関連、明 治29年卒押田徳郎氏卒業証書 グリーンファ イル一括

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail: info@inohana.jp

学内情報

2025年度亥鼻祭開催のお知らせ

亥鼻祭実行委員会委員長

医学部3年 乗貞 佑

こんにちは。今年度亥鼻祭実行委員長を務めます、医学部3年の乗貞佑と申します。長い歴史を引き継ぎ、昨年度まで亥鼻祭を開催できましたのはろのはな同窓会や会員の皆様のご協力やご支援あつてのことであり、

感謝申し上げます。この同窓会誌では私の方から、今年度の亥鼻祭の紹介をさせていただきます。

亥鼻祭は今年度は11月2日(日)9時~17時を予定しております。亥鼻祭は受験生に大学を紹介するオー



ブンキャンパスとしての側面があります。特に受験生の中には、「他の医学部と迷っていたけど亥鼻祭にきて、千葉大学医学部の受験を決めた」という方もたくさんいらっしゃいます。今年

の新生の中にも亥鼻祭に来て千葉大学医学部に憧れて入学してくれた学生もいます。そのため、今年度も受験相談などの企画、キャンパスツアーなどの企画を通じて千葉大学医学部に入

学してくれる学生のレベルを保ち、かつ上げるという亥鼻祭のミッションを果た

し、千葉大学医学部のさらなる発展の助けになればと思います。

また、オープンキャンパスという面に加えて、今年度の私たちの大きな目標として「亥鼻祭を通じて千葉大学医学部のイメージアップにつなげ、千葉の医療を盛り上げる」ことを目指しています。亥鼻祭は3000人も来場者の方に来ていただける千葉大学として最大規模のイベントです。地域住民の方や受験生、医療に興味のある方に千葉大学医学部を知っていただける

機会です。今年度は、千葉大学医学部の教授にご協力いただいた企画、大学病院にご協力いただいた企画、救急サークルCTATの企画など医療系の企画を増やし、「千葉の医療を盛り上げる」亥鼻祭を目指しております。

亥鼻祭実行委員は部活や勉強に追われながらも、亥鼻祭を盛り上げる活動ができません。このように亥鼻祭を盛り上げる活動ができません。このように亥鼻祭を盛り上げる活動ができません。

さて、このように亥鼻祭を盛り上げる活動ができません。このように亥鼻祭を盛り上げる活動ができません。このように亥鼻祭を盛り上げる活動ができません。

また、今年度もろのはな同窓会の会員の皆様からの個人寄付も受け付けており

ます。ご寄付はろのはな同窓会報に同封いたします。振込用紙をご利用いただけます。最後になりますが、亥鼻祭実行委員会サークルの学生一同、医療系の学園祭として最高のものを1年間かけて準備いたしております。ぜひ、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

令和7年度 第1回理事会議事要旨

日時…令和7年4月24日

(木) 18時より

場所…ステーションコン

ファレンス東京

605A

出席者…

吉原俊雄 (会長)

栗原正利 (副会長)

白澤 浩 (副会長)

中村真人 (副会長)

伊藤達雄 (参与)

吉川廣和 (参与)

岩倉弘毅 (会計監事)

幡野雅彦 (会計監事)

赤倉功一郎 安西尚彦

伊藤彰一 岡本和久

北野慎一郎 齊藤光江

諏訪敏一 諏訪園靖

高橋宏和 田邊政裕

鶴田好孝 林田和也

平澤 晃 星野 聡

松前孝幸 宮本恒彦

横須賀忠 (敬称略)

吉原俊雄会長が議長となり協議が進められた。

議題

1. 報告事項

(1) 医学部旧本館D・D・D寄附状況

吉原俊雄会長より令和7年3月末現在での寄附者寄附金額が報告された。令和6年度の白衣式から学生保護者に贈呈していること

が述べられた。

(2) みらい医療基金・パンフレットの同窓会報への同封について

未来医療教育研究機構から同窓会報へのみらい医療基金のパンフレット同封依頼があり、これまで通り会報に同封することが説明された。

(3) 第68回東日本医科学学生体育大会への名義後援について

東日本医科学学生体育連盟から後援名義使用許可申請があり、後援名義を許可することが報告された。

(4) 千葉大学病理同窓会からの寄附について

千葉大学病理同窓会からの寄附があったことが報告された。

2. 協議事項

(1) 名誉会員の推薦について

吉原会長より資料に基づき東京なのはな会、近畿なのはな会より推薦された候補者が推薦基準を満たしていること説明があり3名を名誉会員に推薦することが承認された。

(2) 令和6年度決算報告

諏訪園靖理事より資料に基づき令和6年度の決算報告があり、収入については会費収入が昨年度とほぼ同

額。事業収入は卒後50周年

基金として昭和49年卒の先生方からの寄附があり、希望により半額を同窓会、半額を千葉大みらい医療基金に寄付し、シルバーの銘板が医学系総合研究棟に掲示されている事が説明された。

支出については総会費、理事会費、委員会費は、予算以内の支出であり、旅費は、胸像製作過程を映像撮影するため使用した。助成金は例年どおり、支部活性化事業費は、9支部(近畿、東京、茨城、神奈川、千葉、静岡、埼玉、栃木、大学)に支援し、同窓サポートプロジェクト経費は、「千葉性暴力被害支援センター」と「法人会員費、ホームカミングデー開催経費など、メモリアル事業費は胸像製作費、除幕式開催経費、150周年記念文集作成代等」に使用したことなどが説明され、承認された。

(2) 監査報告

岩倉弘毅会計監事と幡野雅彦会計監事より、令和6年度の会計監査を実施したところ適正であることが報告され承認された。

(3) 令和7年度事業計画

安西尚彦理事より資料に基づき令和7年度事業計画の説明があり、了承された。

(4) 令和7年度予算案

諏訪園理事より資料に基づき令和7年度の予算について説明があり、収入については、ほぼ例年どおりである。支出については、人件費、備品費、なのはな賞楯製作費を増額、学生活動助成金はオーケストラフェスティバル主管校支援のため、多目的グラウンドの照明設備計画の助成のため増額した事などが説明され、承認された。

吉原俊雄会長よりホームカミングデーに新たに追加招待する卒後15年の先生方への贈呈について今後も検討することとした。

(5) 令和7年度役員について

吉原会長より資料に基づき新役員の説明があり、副会長にはこれまでどおり各支部から白澤浩氏、黒木春郎氏、安西尚彦氏が担当することになり、承認された。

また、新会長の茨城なのはな会 松前孝幸氏(昭52)、神奈川なのはな会 平澤晃氏(昭60)からご挨拶いただいた。

(6) なのはな同窓会賞選考結果

吉原会長より資料に基づき、なのはな同窓会賞の候補者について説明があり、社会貢献賞に中村真人氏(昭54)、中馬敦氏(昭62)、功労賞に植村研一氏(昭34)、石川広己氏(昭55)を推挙

することとした。

(7) 総会について

吉原会長から総会案内について説明があり、今回から開催を支部の持ち回りに変更したことを序文に加え、同窓会賞の司会などを大学支部担当の先生方が検討した事が報告され、承認された。

(8) その他

白澤浩副会長よりホームページに「千葉大学医学部創立150周年記念事業」を設けたことが報告され、「千葉大学医学部150周年記念文集」のD・D・Dを掲載したので広報等で活用してほしいと説明がされた。

令和7年度 なのはな同窓会総会議事要旨

日時…令和7年6月14日

(土) 14時30分より

場所…千葉大学医学部附

属病院外来診療棟

3階 ガーネット

ホール

会場と3階のハイ

ブリッド開催

出席者…73名(会場53名、

オンライン20名)

その他(事務局員

4名)

委任状…543名

白澤浩副会長の開会の辞

により開会となり、安西尚

彦理事の司会のもと、まず

物故者94名に黙祷を捧げた。

吉原俊雄会長の挨拶の後

議事が進められた。

議事

(1) 名誉会員の推薦について

吉原会長より内規に基づき推挙された3名の会員に

内の支出、旅費は胸像製作

過程を映像撮影する際に使用。助成金は9支部に支援、同窓サポートプロジェクトは、ホームカミングデー開催経費等、メモリアル事業は胸像の除幕式開催費等を支出したことなど説明があり、承認された。会員より卒後50周年基金の運用について質問があり、具体的な活用を検討することとした。

(2) 監査報告

幡野雅彦会計監事より、令和6年度の会計監査を実施したところ適正であると説明され、承認された。

(4) 令和7年度事業計画

安西理事より令和6年度とほぼ同等の事業計画であるが、6. メモリアル事業については昨年度様々な事業を終え一区切りとしたとの説明があり承認された。

(5) 令和7年度予算案

諏訪園理事より令和7年度の予算案について、収入はほぼ例年どおりである。支出は総会費、理事会費、委員会費は減額、人件費は法定福利費や新規職員採用のため増額、旅費は胸像製作ビデオ撮影を終えたため減額、備品費は事務室のパソコン買換えのため増額、学生活動助成金はオーケストラフェスティバル主管校支援およびグラウンド夜間照

(1) 庶務部報告

安西理事より令和6年度の各会議開催が報告された。

(2) 事業部報告

安西理事より、同窓会賞の授与、同窓会報の発行、同窓サポートプロジェクト、メモリアル事業、各種助成について報告された。

(3) 令和6年度決算

(1) 決算報告

諏訪園靖理事より、会費収入は昨年度とほぼ同額、卒後50周年基金は昭和49年卒の先生方からの寄付金で、半額は千葉大みらい医療基金に寄付されシルバーの銘板が医学系総合研究棟に掲示されている。支出は総会費、理事会費、委員会費で予算

明設備への寄付などが説明され、承認された。

(6)令和7年度役員

吉原会長より、新理事が神奈川ゐのはな会、近畿ゐのはな会から推薦され、新副会長を含めた令和7年度役員について説明があり承認された。

亥鼻祭実行委員会学生の挨拶の後、幡野会計監事の辞により閉会された。

ゐのはな同窓会賞表彰式

諏訪園理事の司会により、伊藤彰一理事から社会貢献賞受賞者中村真人氏、中馬敦氏について、諏訪園理事より功労賞受賞者植村研一氏、石川正己氏についてそれぞれ紹介され、表彰式が行われた。吉原会長より表彰盾と副賞が授与された。

特別顧問挨拶

安西理事の紹介で、三木隆司千葉大学大学院医学研究院長・医学部長と大島精司千葉大学医学部附属病院長よりご挨拶をいただいた。

講演

座長吉原俊雄会長の紹介で「希少難病を追求してヒトの老化に迫る…千葉大学の現況紹介を含めて」と題して横手幸太郎千葉大学長による講演が行われた。

令和7年度（2025年）ゐのはな同窓会役員・理事

会 長	吉原 俊雄（昭53）	会計監事	岩倉 弘毅（昭37）、幡野 雅彦（昭57）
副 会 長	白澤 浩（昭57）、黒木 春郎（昭59） 安西 尚彦（平2）	参 与	伊藤 達雄（昭42）、栗原 正利（昭54） 中村 真人（昭54）
顧 問	大井 利夫（昭35）、吉川 廣和（昭40）		

支 部 名	理 事 名	支 部 名	理 事 名
東京ゐのはな会	齊藤 光江（昭59）、岡本 和久（平2） 井上 賢治（平5）、横須賀 忠（平5） 武藤 剛（平19）	山梨ゐのはな会	鶴田 好孝（昭54）
埼玉ゐのはな会	諏訪 敏一（昭43）、林田 和也（昭52）	茨城ゐのはな会	石川 詔雄（昭47）、松前 孝幸（昭52）
千葉県ゐのはな会	田邊 政裕（昭49）、ピアス洋子（昭57） 小島 広成（平3）、高橋 宏和（平11）	栃木県ゐのはな会	星野 聡（昭43）、森本 直樹（平3）
神奈川ゐのはな会	北野慎一郎（昭50）、平澤 晃（昭60） 野澤 聡志（平2）	信州ゐのはな会	小林 敏生（昭53）
群馬ゐのはな会	鈴木 守（昭39）、中島 透（昭56）	千葉大学ゐのはな会	清水 栄司（平2）、菱木 知郎（平5） 諏訪園 靖（平6）、甲賀かをり（平8） 伊藤 彰一（平10）、三澤 園子（平11）
静岡ゐのはな会	宮本 恒彦（昭54）、赤倉功一郎（昭59）	中京ゐのはな会	森田 弘之（昭56）、剣持 敬（昭58）
		近畿ゐのはな会	上田真喜子（昭50）、島 正之（昭59）

令和7年度予算

収入の部	款 項 目	予算額（円）
	会 費 等	18,450,000
	事業収入（註1）	7,300,000
	他会計より受入	1,000
	寄 付 金	250,000
	基金より取崩し（註2）	0
	雑 収 入	16,000
	（当期収入計）	26,017,000
	前年度繰越金受入	12,939,825
	収入合計	38,956,825
支出の部	款項目（節）	予算額（円）
	総 務 費（註3）	15,150,000
	事 業 費（註4）	16,170,000
	事業税等	1,700,000
	予 備 費	5,836,825
	積 立 金	100,000
	次期繰越金	
	支出合計	38,956,825

令和6年度決算報告

収入の部	款 項 目	予算額（円）	決算額（円）	対予算額（円）
	会 費 等	18,600,000	17,134,000	-1,466,000
	事業収入（註1）	7,300,000	7,087,673	-212,327
	他会計より受入	1,000	829	-171
	寄 付 金	1,631,000	2,918,500	1,287,500
	基金より取崩し（註2）	6,000,000	4,150,840	-1,849,160
	雑 収 入	16,000	6,012	-9,988
	前年度繰越金受入	12,956,166	12,956,166	
	収入合計	46,504,166	44,254,020	-2,250,146
支出の部	款項目（節）	予算額（円）	決算額（円）	対予算額（円）
	総 務 費（註3）	14,600,000	10,902,093	-3,697,907
	事 業 費（註4）	23,651,000	18,689,802	-4,961,198
	事業税等	1,600,000	1,622,300	22,300
	予 備 費	6,553,166	0	-6,553,166
	積 立 金	100,000	100,000	0
	次期繰越金		12,939,825	12,939,825
	支出合計	46,504,166	44,254,020	-2,250,146

註1～4：収入、支出の主要細目等

収入の部	款 項 目		令和7年度予算	令和6年度予算
	（註1） 事業収入	会員総合補償制度集金事務費	7,300,000	7,300,000
	（註2） 基金より取り崩し	同窓会基金よりメモリアル事業に充当	0	6,000,000
支出の部	（註3） 総務費			
		会議費	3,300,000	4,500,000
		人件費	7,700,000	7,000,000
		法定福利費	1,200,000	0
		その他	2,950,000	3,100,000
	（註4） 事業費	会報・会誌	5,700,000	5,700,000
		学事奨励 ・ ゐのはな賞	600,000	550,000
		・ ゐのはな美術展	200,000	200,000
		・ 猪之鼻奨学会	400,000	400,000
		各種助成 ・ 附属図書館	800,000	800,000
		・ 白衣式	800,000	750,000
		・ 国際交流支援	100,000	100,000
		・ ちばBCRC支援	300,000	300,000
		・ 学生活動助成金	400,000	200,000
		・ 留学生交流支援費	100,000	100,000
		・ 白菊会	200,000	200,000
		・ 支部	4,100,000	4,100,000
		・ 卒業祝い金	500,000	500,000
		・ 同窓サポートプロジェクト	1,400,000	1,800,000
		・ IT関連事業費	500,000	500,000
		メモリアル事業等	0	7,381,000
		その他	70,000	90,000

勝又 一郎 (昭23) 安藤 俊三 (昭24) 寺島 重義 (昭25) 鴻谷 秀雄 (昭25) 粕谷 友彌 (昭26) 上野 芳昌 (昭26) 小関 昭光 (昭27) 雨宮 照光 (昭27) 橋本 正道 (昭29) 伊谷 昭幸 (昭30) 藤山 嘉信 (昭31) 庵原 昭一 (昭32) 木村 広子 (昭33) 須田 恵子 (昭34) 長尾 佳子 (昭35) 清島 啓治郎 (昭35) 館野 吉也 (昭35) 真島 吉也 (昭35)

おくやみ

松山 迪也 (昭35) 砂倉 瑞良 (昭37) 大塚 嘉則 (昭41) 内村 逸郎 (昭43) 長谷川 康史 (昭45) 吉田 研一 (昭46) 南郷 正彦 (昭49) 當銘 正彦 (昭50) 大矢 和光 (昭53) 木下 仁一 (昭56) 斎藤 清幸 (昭57) 中條 雅季 (昭58) 青墳 章代 (昭60) 中市 人史 (昭62) 小島 哲一 (昭62) 増田 一哲 (昭62)

残暑の候、今年は例年以上に猛暑が続いております。ゐのはな同窓会報198号が皆様のお手に取られる頃には、幾分か過ぎやすくなっていることを願います。

本号にも各方面で同窓会員の活躍の様子満載されており、心強い限りです。巻頭には、6月14日開催されたゐのはな同窓会総会の概要が掲載されています。同窓会長、副会長の挨拶、叙勲者紹介、ゐのはな同窓会賞受賞者報告、教授、病院長就任・退任挨拶など各地での同窓会員の活躍が記載されており、「各地ゐのはなだより」では、千葉県に加え近畿ゐのはな会の報告があり、また各学年のクラス会や高等学校同窓生の報告も数多く寄せられました。全

編集後記

国で活躍の先生方の活動には励まされることが多く、今後さらに多くの先生方からのご寄稿を期待します。

同窓の先生方が活躍されている医療の状況は厳しさが増えています。未来を見据えたヴィジョンを持つためには、歴史的考察が必須と思われます。筆者は欧州医学史巡りを連載させていただいておりますが、病院の歴史一つをとっても、日本と欧米との相違が痛感されます。一言でいえば、「病院とは公的病院が大半である世界の中で、民間病院が、それも個人開業医の診療所から発展した小規模病院が病院医療の中心を担ってきたユニークな医療体制の国」です。西南戦争後の財政窮迫のためか、明治

20年の「勅令第48号」発布以降府立・県立医学学校ならびに附属病院の運営が不可能となり、多くが廃校や民間に払い下げされました。明治21年当時の公立医学学校は、東大に加え、官立医学学校5(宮城、千葉、岡山、金沢、長崎)、府立(京都、大阪、名古屋)のみでした。

数少ない官立医学学校を前身として存立してきた千葉大学医学部同窓が集うゐのはな同窓会がさらに飛躍することを願います。なお同窓会報への新たな掲載企画などありましたら、事務局にご一報いただきますようお願い申し上げます。

杉田克生(昭54)

千葉医学101巻2号 2025年6月

総説

世界最大級のレセプトデータ(NDB)を用いた臨床研究への誘い
高林克日己 安藤文彦 土井俊祐 鈴木隆弘

千葉医学会奨励賞

大規模検診コホートをを用いた、環境因子やエピゲノム異常と
消化器病リスクとの関連の探索
白井源紀

千葉医学史

画家、猪熊弦一郎と千葉大田第一外科の交わり
森嶋友一

学会

第1504・1519回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構
研究発表プログラム(第12・13回桜美会)

第1513回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

第1518回千葉医学会例会・第24回呼吸器内科例会

(第38回呼吸器内科同門会)

編集後記

第100回千葉医学会学術大会

Chiba Medical Journal

Case Report

A successful strategy for resecting giant aneurysmal bone cysts in the skull base:
an illustrative case and literature review

Kosuke Adachi, Kentaro Horiguchi, Shinichi Origuchi, and Yoshinori Higuchi

Chiba Medical Society Award Review

Innovative treatment for myasthenia gravis using Fc fusion protein

Akiyuki Uzawa

Chiba Medical Society Young Investigator Award Minireview

Apoptosis-inducing function of p53 and its mutations leading to
cancer progression

Maya Kitajima, Kazuko Kita, and Atsushi Kaneda

ゐのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第三回(二〇二六年度)ゐのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

② 功 労 賞

医療および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学ゐのはな同窓会に多大の貢献をした会員。

二、表彰

① 社会貢献賞(二件以内) 盾および賞金(総額二十万円以内)を贈呈します。

② 功 労 賞(二件以内) 盾および賞金(総額二十万円以内)を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇二五年十二月一日から二〇二六年二月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇二六年五月中旬までに各申請者に通知すると共に、ゐのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、ゐのはな同窓会事務局

申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

—— 会報198号編集委員 ——

菱木 知郎(平5) 編集委員長

杉田 克生(昭54) 白澤 浩(昭57)

剣持 敬(昭58) 今野 慎(昭62)

小島 広成(平3) 宍戸 忠幸(山梨医大・平8)

大西俊一郎(平17) (敬称略)